



令和 4 年度

デジタル化社会における戦略的データ活用促進支援事業
(令和 4 年度地域中小企業データ活用BootTest事業)
ご報告書

2023年3月31日

株式会社クニエ

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

用語	意味
BI	BI＝ビジネスインテリジェンスとは、経営で得たデータを集積したり分析を行ったりすることの総称。
BPO	ビジネス・プロセス・アウトソーシング。企業活動における業務プロセスの一部について、業務の企画・設計から実施までを一括して専門業者に外部委託すること。
DX知財戦略	DXを活用した知財戦略。
INPIT	独立行政法人工業所有権情報・研修館。経済産業省所管の独立行政法人。全国47都道府県に知財総合支援窓口があり、中小企業等の経営課題の解決に向けて、「知的財産」の側面から支援を実施。
LTV	ライフタイムバリュー（顧客生涯価値）。
PowerBI	Microsoft Power BI。Microsoft社が提供するBIツール。
コーディネータ	連携団体に任命した地域中小企業の支援者。令和4年度は、地域中小企業1社に1コーディネータとしており、2名で2社を支援するなど、支援方法の詳細は各連携団体に判断。
データサイエンティスト	意思決定において、データにもとづいて合理的な判断を行えるように意思決定者をサポートする職務またはそれを行う人。
デジタルマーケティング	インターネットの各種デジタル媒体を活用して商品マーケティングを行い、お客様と関係構築を行う手法。
ブートキャンプ	軍隊式トレーニングの総称。本事業では、集中的にトレーニングをする意味で使用。
ワークショップ	参加企業、連携団体を対象に実施する研修プログラムのひとつ。
情報連絡会	連携団体・コーディネータと事務局の情報連絡のための会議。
知財戦略マネジメント	知財戦略＝知的財産から得る企業の利益を最大化すること。そのためのマネジメント。
知的財産（知財）	発明やアイデア、デザインなど、人の知的な、クリエイティブな活動から産まれた「財産的な価値のあるもの」。
地域共創プラットフォーム	産官学金民の連携による共創社会を実現するプラットフォーム。

1. 事業報告概要

1. 事業報告概要

1. 基本方針

2. 業務概要

1. 知財戦略

2. データ活用

3. 実施結果

1. 知財戦略

2. データ活用

4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略

1. 全体研修

2. 企業別個別相談会

2. データ活用

1. 全体研修

1. 講義

2. ワークショップ

3. 活動報告会

2. 企業別個別相談会

3. 情報連絡会

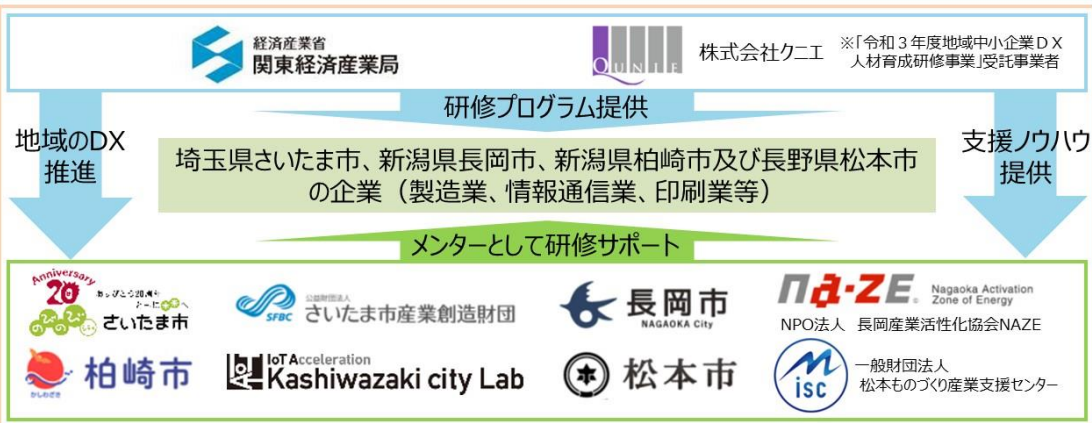
4. コーディネータ研修

1.1. 基本方針 背景

令和3年度地域中小企業DX人材育成研修事業において、域内の中小企業14社を対象に、**地域中小企業データ活用BootTest**を実施し、データ活用による効果創出を支援した。

地域中小企業データ活用BootTest事業の概要

- 関東経済産業局管内の4地域と連携し、**各地域の中小企業等を対象に「データ活用人材」の育成**を行い、地域企業のDXを推進する。
- **自治体及び支援機関等がメンターとして参画**することで、地域におけるデータ活用人材育成支援のノウハウ習得も目指す。



- 本事業の成果を当局管内の自治体・支援機関へ広く普及し、他地域への横展開を図る。
- 令和4年度以降、4地域において、各地域の状況に応じたデータ活用に関する支援プログラムの展開を目指す。

参加企業様には、概ねご好評頂き、データ活用の取り組みを継続的に行う意思を確認いたしました

14企業による活動成果報告

	分野	活動テーマ
1	製造	欠点率の可視化による不具合削減
2	製造	AIによるメッキ外観検査
3	製造	見積業務の効率化（金型の見積精度向上に向けたデータ分析・活用）
4	製造	充填温度と製品重量の相関関係の分析
5	出荷・在庫	出荷データ分析に基づく「出荷サービス改定版」で、夕方の出荷ピークを解消し、運送業者への荷渡しを早める。
6	人材	スキル向上全体のマネジメント
7	出荷・在庫	医薬品在庫の可視化
8	営業	新規案件を増やす為に、名刺de商売繁盛を活用して、当社の製品認知度UPを図る。
9	営業	「集客UP：WEB&メルマガ」／「受注数UP：問い合わせ対応」～集客から受注（新規顧客獲得）～
10	営業	ウェブサイトおよびSNSを活用した新規顧客の開拓
11	経理	営業活動の可視化と共有による、売り上げ拡大
12	経理	経営数値のリアルタイムでの可視化による経営判断の高度化
13	経理	営業案件による売上・利益のシミュレーション
14	営業	情報共有の促進による社内コミュニケーションの活発化と顧客サービスの最適化

1.1. 基本方針 今年度の実施方針

令和4年度は、データ活用による企業の知的財産を創出することで、データ活用の促進を図り、地域中小企業のDX化を推進することを目的として「知財戦略」と「データ活用」の2つの柱でブートキャンプを実施した。

本事業の目的

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、東京一極集中が抱える経済リスクが顕在化し、多核連携型・分散型の地域経済社会が求められている中、東京一極集中の要因の一つともなっている都市と地方の「稼ぐ力」の差を縮小するために、地域企業の利益率、競争力を向上させる
- デジタル技術の活用による業務等の効率化はもとより、AI、ロボット等の先進技術を駆使しつつ、デジタル化による様々なデータの取得・連携・活用により、ビジネスプロセスの最適化やオペレーションの効率化を実現するデジタル・トランスフォーメーション（DX）へ向けた取組を推進する

本事業の2つの柱

知財戦略

地域企業が価値の源泉となるデータを重要な知的財産として位置付け、企業の利益率、競争力向上に向けて、自治体・金融機関等と連携し、地域支援機関やコーディネータとともに、地域中小企業に対して、企業内にデータ活用人材を育成する

データ活用

「データの保護を含めた新事業を行う上での知財戦略」や「データ活用の必要性」を認識した上で、自社の保有データや市場データを有効に活用し、製品・サービスの開発やビジネスモデルの変革まで取り組む企業を、地域において多数創出していく

1. 事業報告概要

1. 基本方針

2. 業務概要

1. 知財戦略

2. データ活用

3. 実施結果

1. 知財戦略

2. データ活用

4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略

1. 全体研修

2. 企業別個別相談会

2. データ活用

1. 全体研修

1. 講義

2. ワークショップ

3. 活動報告会

2. 企業別個別相談会

3. 情報連絡会

4. コーディネータ研修

1.2. 業務概要

地域中小企業データ活用bootcamp 参加連携団体・企業



7つの連携団体と16の地域企業が参加し、各社が抱える経営課題を解決すべく18のデータ活用テーマを設定し、検証を実施した。

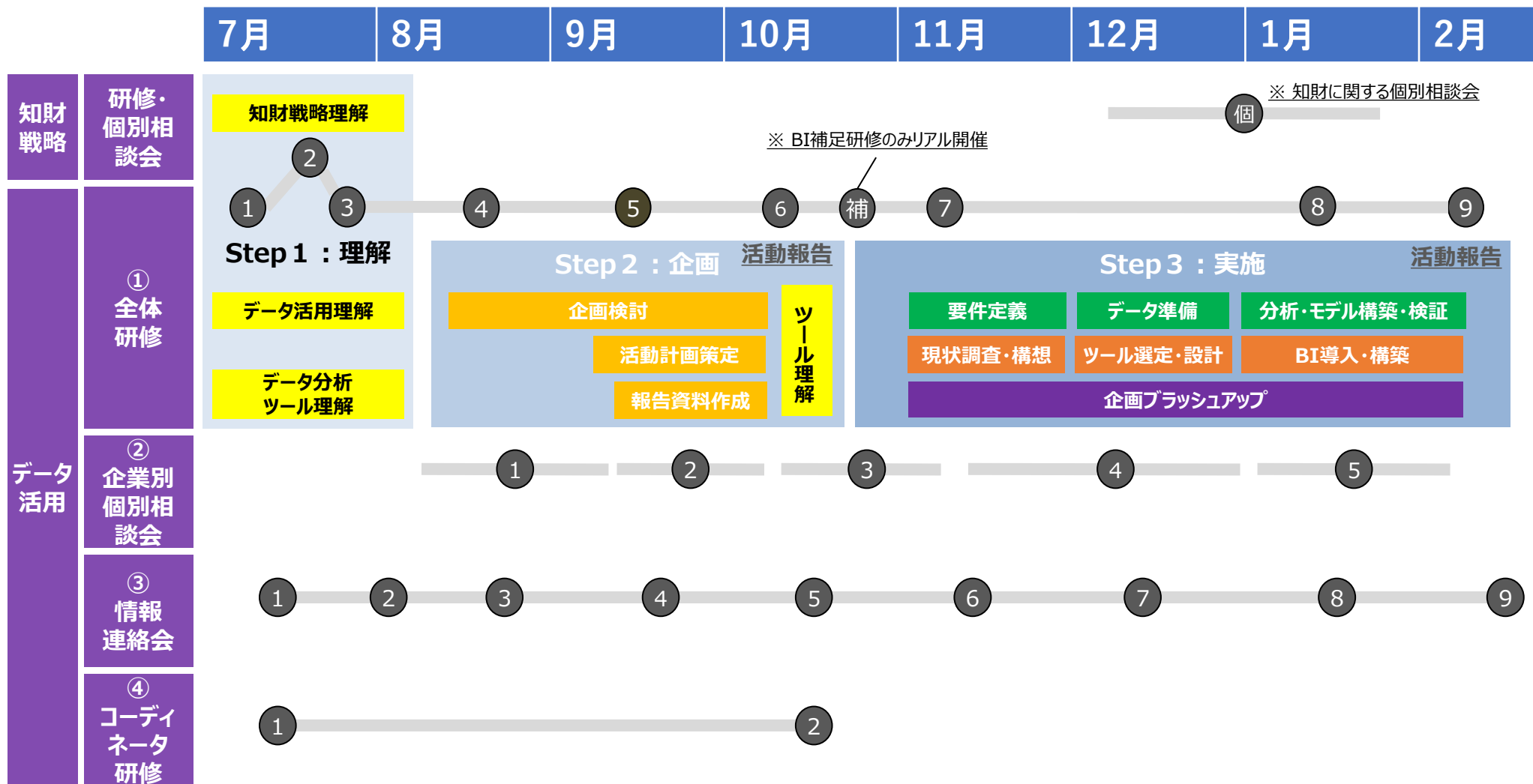
連携団体名		参加企業名	テーマ名
前橋市		株式会社花助	顧客のLTVを高める為の施策検討とそのための分析環境の整備
		株式会社吉田鉄工所	(非公表)
三島信用金庫		株式会社フジコー	来場者の顧客属性の把握と属性ごとのニーズに応じた効果的な販売促進の確立
		株式会社山本食品	出荷予測、在庫管理、直営店のバス台数による売上予測
		加和太建設株式会社	道の駅 物産販売店の売上アップ
埼玉県DX推進支援ネットワーク	埼玉縣信用金庫	株式会社ヒタチ	生産効率改善（段取作業の標準時間設定とマニュアル作成）
			営業会議資料の作成
	株式会社埼玉りそな銀行	昭和工業株式会社	適正な管理
	株式会社武蔵野銀行	東洋パーツ株式会社	購買業務の多能効果及び情報の可視化
株式会社八十二銀行		株式会社ミールケア	顧客/管理データの利活用
		株式会社丸眞製作所	付帯作業時間の削減による生産効率の向上
		塚田理研工業株式会社	売上、利益（損益）の分析。（加工履歴からの不良分析）
松本市・一般財団法人松本ものづくり産業支援センター		日穀製粉株式会社	デジタル管理（ペーパーレス）と見える化を進め、生産性向上を実現する。
長野市・長野商工会議所		株式会社竹村製作所	(非公表)
		飯島建設株式会社	顧客の行動履歴分析から成約パターンの可視化
市原市・市原商工会議所		株式会社諏訪商店	商品販売管理と財務諸表項目詳細の可視化
		みどり産業株式会社	車両修繕費の予実管理
			SNSの効果の見える化

1.2. 業務概要

地域中小企業データ活用bootcamp 実施概要



令和4年7月から令和5年2月の8か月間に、①全体研修、②企業別個別相談会、③情報連絡会、④コーディネータ研修を実施し、企業及び連携団体のデータ活用の向上を図った。



1. 事業報告概要

1. 基本方針

2. 業務概要

1. 知財戦略

2. データ活用

3. 実施結果

1. 知財戦略

2. データ活用

4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略

1. 全体研修

2. 企業別個別相談会

2. データ活用

1. 全体研修

1. 講義

2. ワークショップ

3. 活動報告会

2. 企業別個別相談会

3. 情報連絡会

4. コーディネータ研修

1.2. 業務概要 1. 知財戦略

① 全体研修

知財戦略は、第2回研修にて、「弁護士法人 内田・鯨島法律事務所」の先生を招聘して、データ活用における知財戦略や個人情報の取り扱いについての講義を実施した。

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
----	----	----	-----	-----	-----	----	----

2

第2回 知財戦略を踏まえたデータ活用を進めるための基礎知識

講義		内容	講師
講義①	デジタル知財戦略	・ 技術を収益化するためのメカニズムー 契約や知財戦略はビジネスを進めるためのツール ・ 知財戦略を活用してニッチトップへ ・ DX知財戦略の成功例 ・ DX知財戦略の具体的な進め方 ・ 特許制度とはどういうものか ・ 中小企業様向けのサービス	弁護士法人 内田・鯨島法律事務所 代表弁護士 鯨島 正洋 様
講義②	データの取扱いに関する法務的な考え方及び留意点	・ 法律から見た「データ」とは ・ 「データ」の取扱いについて関係者間で何を合意（契約）すればいいのか？	弁護士法人 内田・鯨島法律事務所 弁護士 阿久津 匡美 様
講義③	Privacy by design の基礎を習得する	・ 今回の事案 ・ 個人情報とは ・ 個人情報取扱事業者とは ・ 3つの情報類型と対応する義務	弁護士法人 内田・鯨島法律事務所 弁護士・獣医師 永島 太郎 様

1.2. 業務概要 1. 知財戦略

② 企業別個別相談会

企業別個別相談会では、オンラインによる個別相談会を2社へ実施し、各社の懸念を払しょくした。また、1社についてはINPITへ相談を移管した。

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
----	----	----	-----	-----	-----	----	----

個

※ 知財に関する個別相談会

参加企業	相談概要	対応	
A社	顧客データ、売上データ分析に伴う個人情報（プライバシーポリシー、規約）の取り扱い	- オンライン：1時間×2回 状況確認、法的見解、対応提言 - 資料レビュー：1.5時間 プライバシーポリシー、規約 ※商標：INPITへ紹介	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士・獣医師 永島 太郎 様
B社	定期販売・配達事業者との契約により、顧客情報を取得できない卸事業者が、実施する顧客アンケートで取得できる情報範囲、及び、アンケート実施時の個人情報保護法における注意点	オンライン：1時間/回 状況確認、法的見解、対応提言	
C社	独自ノウハウで生産している特注品の特許取得による適正な利益幅の確保可能期間	- デジタル経済課様からINPITを紹介 - INPITにて相談対応	

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

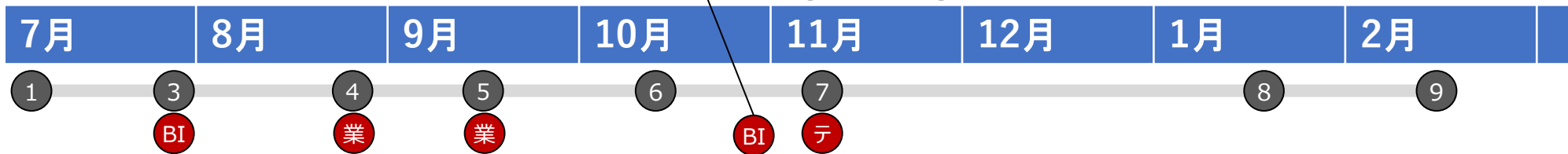
1.2. 業務概要 2. データ活用

① 全体研修

全体研修は、Step 1、Step 2、Step 3 にて各3回計 9 回の全体研修では、講義とワークショップをオンラインで実施した。

※ BI補足研修のリアル開催

● 講義 ● ワークショップ (業：業務別、テ：テーマ別、BI：ツール研修)



「データ活用・知財」研修



- データ活用で出来ること、その使い方を理解する
- データ活用による知財戦略の考え方を理解する
- データ活用ツールの利用方法を習得する

「活動計画書」作成



分析系

可視化系

- あるべき姿の定義、課題の定義
- 課題はデータ活用で解決でき、十分なビジネスインパクトを有するか
- 利用目的、シナリオは明確になっているか
- 可視化に必要なデータは充足しているか

Step 2 報告



- 活動計画書を元に発表する

実証実験



- 活動計画に基づき、検証を行う
- 分析トライアルや施策テスト、企画精度アップの為の研究や調査を行う
- グループディスカッションにて、意見交換する

Step 3 報告



- 実証結果を元に最終報告を発表する

1.2. 業務概要 2. データ活用

① 全体研修



全体研修は、Step 1、Step 2、Step 3 にて各3回計 9 回の全体研修では、講義とワークショップをオンラインで実施した。

① 全体研修（オンライン、リアル）

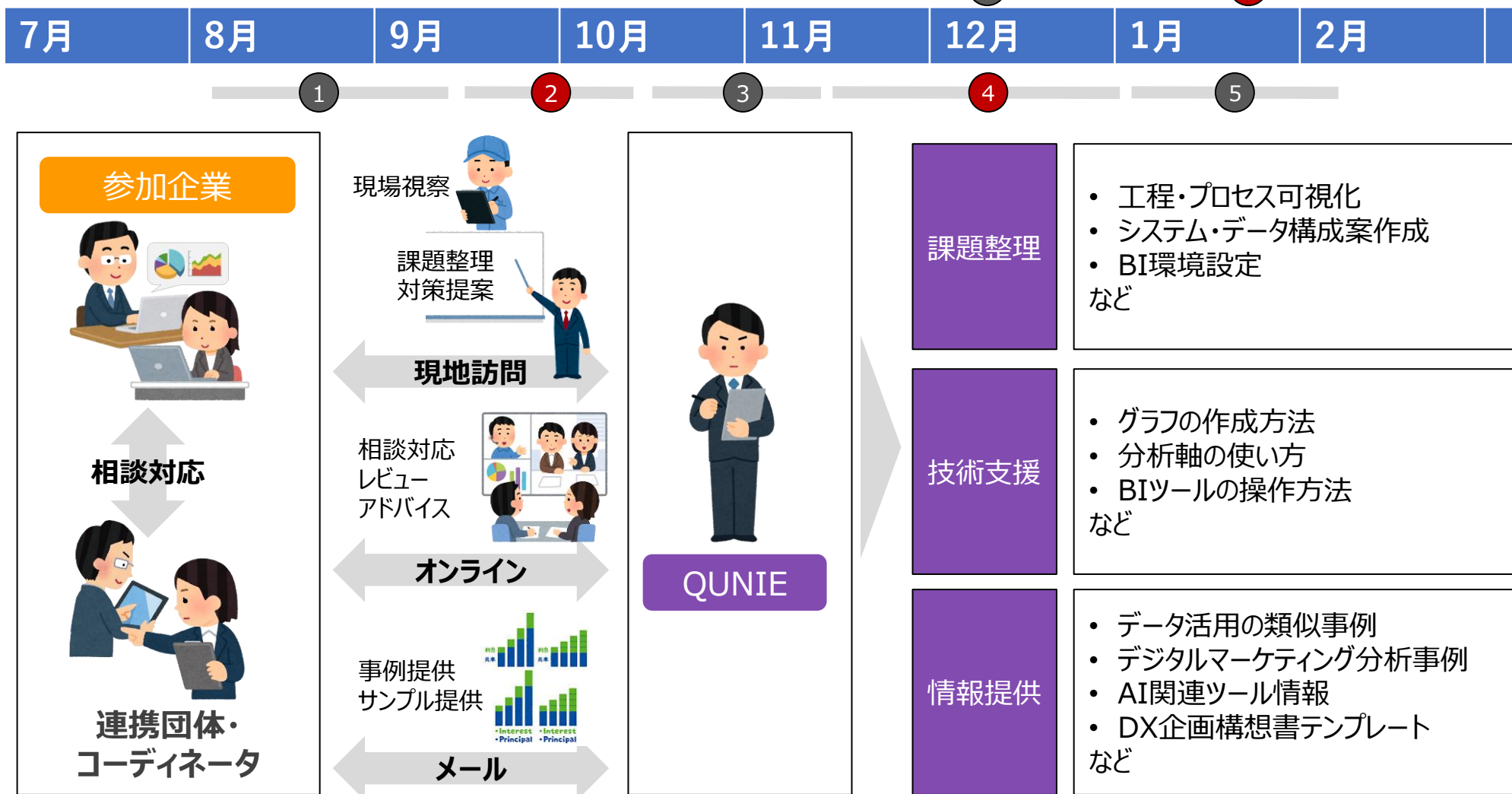
全体研修	開催時期	時間	実施概要	
第1回研修	令和4年7月6日	3時間	データ活用研修	データとは何か、どう活用するか
第2回研修	令和4年7月20日	3時間	知財研修	デジタル知財戦略
第3回研修	令和4年7月27日	3時間	データ活用研修	データ分析ツールの紹介／ワークショップ
第4回研修	令和4年8月24日	3時間		製造業系データ分析の手法・事例紹介／ワークショップ
第5回研修	令和4年9月14日	3時間		営業系可視化の進め方／ワークショップ
第6回研修	令和4年10月12日	4時間		Step 2 活動報告①
BI補足研修	令和4年10月26日	3時間		PowerBIの企業別個別相談（リアル開催）
第7回研修	令和4年11月9日	3時間		Step 2 活動報告②／ワークショップ
第8回研修	令和5年1月18日	3時間		他社のDXの継続的な取組の事例紹介／企業別個別相談
第9回研修	令和5年2月15日	6時間		Step 3 活動報告

1.2. 業務概要 2. データ活用

② 企業別個別相談会

企業別個別相談会では、企業訪問とオンラインによる個別支援を各社 5 回実施し、各テーマに応じた課題解決とデータ検証の支援を実施した。

● オンライン 1時間/回 ● 企業訪問：約2.5時間/回



1.2. 業務概要 2. データ活用

② 企業別個別相談会



企業別個別相談会では、企業訪問とオンラインによる個別支援を各社 5 回実施し、各テーマに応じた課題解決とデータ検証の支援を実施した。

② 企業別個別相談会（現地訪問、オンライン）

企業別個別相談会	開催時期	時間	実施概要	
第1回個別相談会：オンライン	令和4年8月上旬-9月中旬	各1時間	データ活用研修	課題整理／活動計画テーマの設定
第2回個別相談会：現地訪問	令和4年9月下旬-10月中旬	各2～2.5時間		活動計画書の作成方法
第3回個別相談会：オンライン	令和4年10月中旬-11月上旬	各1時間		活動計画書の作成方法 データ活用検証の課題解決
第4回個別相談会：現地訪問	令和4年11月中旬-12月下旬	各2～2.5時間		データ活用検証の課題解決
知財個別相談会：オンライン	令和4年12月上旬-1月上旬	各1時間	知財研修	
第5回個別相談会：オンライン	令和5年1月上旬-2月上旬	各1時間	データ活用研修	データ活用検証の課題解決

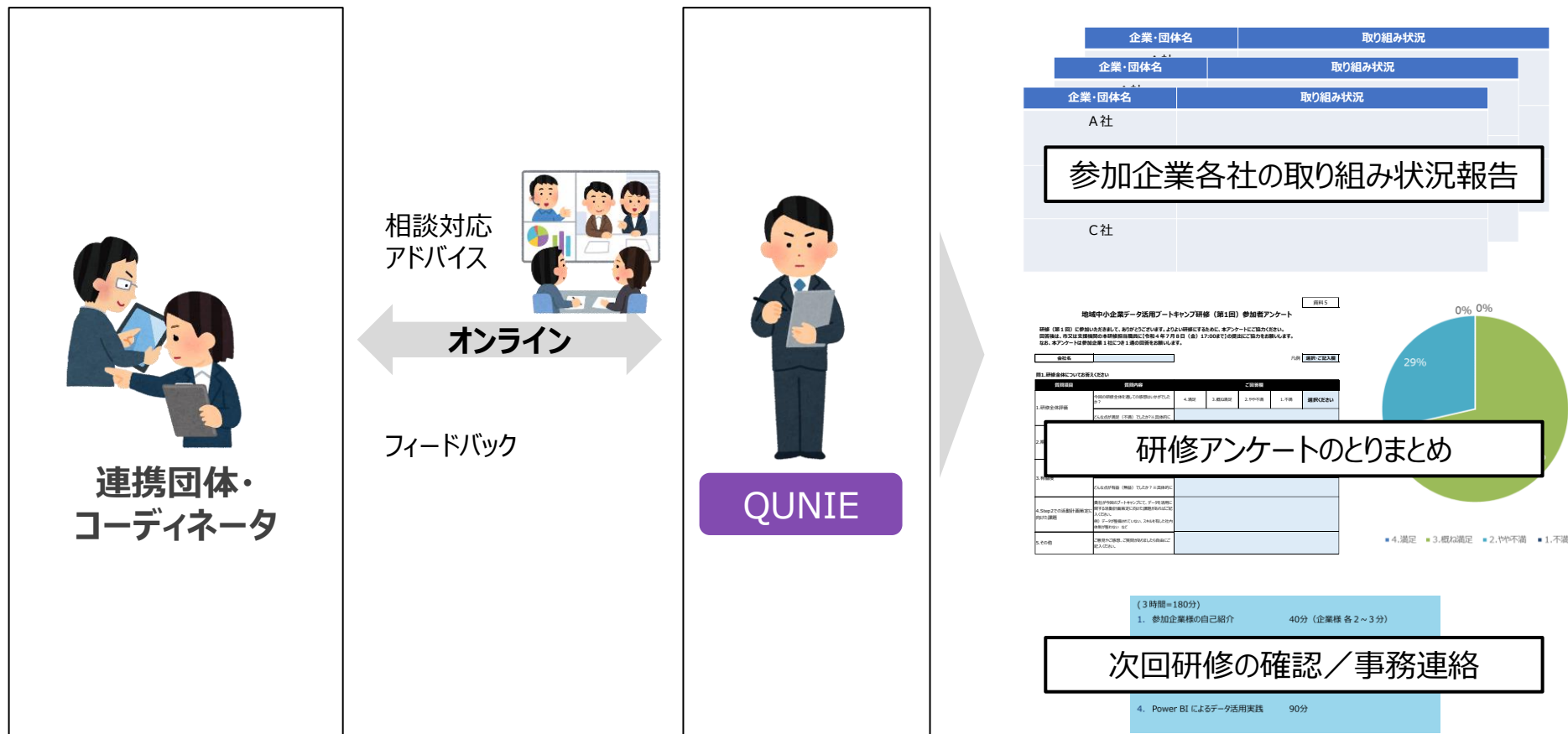
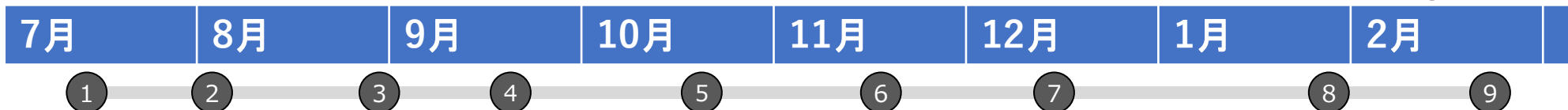
1.2. 業務概要 2. データ活用

③ 情報連絡会



連携団体・コーディネータとの情報連絡会では、全体研修の総括と各企業の取り組み状況を適宜確認し、団体間の連携と各企業の進捗と成果創出を管理した。

● オンライン



1.2. 業務概要 2. データ活用

③ 情報連絡会



連携団体との情報連絡会では、全体研修の総括と各企業の取り組み状況を適宜確認し、団体間の連携と各企業の進捗と成果創出を管理した。

③ 情報連絡会（オンライン）

情報連絡会	開催時期	時間	実施概要
第1回情報連絡会	令和4年7月13日	1時間	自己紹介、第1回研修の振り返り、次回研修の説明
第2回情報連絡会	令和4年8月3日	1時間	第2・3回研修・第1回コーディネータ研修の振り返り、Step 2 / 個別相談会の説明、第4回研修の説明
第3回情報連絡会	令和4年8月31日	1時間	第4回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第5回研修の説明
第4回情報連絡会	令和4年9月21日	1時間	第5回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第6回研修の説明
第5回情報連絡会	令和4年10月19日	1時間	第6回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第7回研修の説明
第6回情報連絡会	令和4年11月16日	1時間	第7回研修・第2回コーディネータ研修・BI補足研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第8回研修の説明
第7回情報連絡会	令和4年12月14日	1時間	企業フォローアップ状況確認、第8・9回研修の説明
第8回情報連絡会	令和5年1月25日	1時間	第8回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第9回研修の説明
第9回情報連絡会	令和5年2月22日	1時間	第9回研修の振り返り、各連携団体からの報告、アフターサポートの説明

1.2. 業務概要 2. データ活用

④ コーディネータ研修

各社を伴走支援するコーディネータに向けて、Step 2 活動計画策定、Step 3 実証 にて行う支援について、事前研修を全 2 回、オンラインで実施した。



④ コーディネータ研修（オンライン）

コーディネータ研修	開催時期	時間	実施概要	
第1回コーディネータ研修	令和4年7月13日	1時間	データ活用研修	支援方法の説明／過去事例の説明
第2回コーディネータ研修	令和4年10月19日	1時間		参考事例の説明

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

1.3. 実施結果 1. 知財戦略

各企業及び連携団体が知財戦略を認識し、約 3 割の企業が知財戦略への興味を示したことで、データ活用の継続推進に合わせて、知財戦略の検討が浸透していくことが期待される。

	成果	課題
① 全体 研修	データ活用と並行して知財戦略の検討が必要であることを認知したことで、引き続き、企業と連携団体が知財への理解を深めることで、地域中小企業に浸透し、知財保護の意識が高まるが見込まれる。	データ活用と知財戦略の関係性の説明が不十分なため、企業や連携団体が理解不十分であることを念頭に、国やINPITは継続的に必要性を訴えつつ、企業や連携団体も知財への意識を高めていくために、トップダウンとボトムアップでのアプローチを続けることが肝要である。
② 企業別 個別相 談会	個別相談会を要望した企業にとっては、知財リスクへの対処方法を、専門的知見から得られたことで、いつ何をすべきか判断できた点が有益である。	個別相談会（INPIT相談を含む）を希望した3社以外の知財戦略の検討の掘り起こしのために、データ活用の継続状況をとらえ、検討タイミングを見極める必要がある。地域においてその役目を誰が担うのか、連携団体やコーディネータの役割も含めて定義づけが急務である。

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

各企業及び連携団体がプログラムを完遂し経営課題を解決することで、データ活用の有意性を理解し、取り組みの継続による更なる成果創出に意欲を示すに至る。

	成果	課題
① 全体 研修	参加企業16社がデータ活用活動報告を完遂し、かつデータ活用に継続的に取り組む状態に至ったことで、各地域のデータ活用の先行事例ができた点が最も有益な点である。今後、参加企業が継続的にデータ活用で成果を創出し、連携団体が参加企業の支援と並行して、地域中小企業へ横展開することを期待できる。	研修プログラム日程、活動計画書フォーマット、研修講義及びテキスト、業務別・テーマ別ワークショップの運用、活動報告会の運営など、浮き彫りとなった改善事項を取り込んで、ブートキャンプの精度を引き上げる必要がある。次回のブートキャンプで改善し、バージョンアップする。
② 企業別 個別相 談会	現地訪問で現状や問題・課題を正確にとらえて、効果創出に真摯に向き合ってきた結果、参加企業と良好な関係を構築し、一定の成果創出に至れたことは、大きな成果といえる。今回の取り組みが火が消えないように、連携団体を中心にアフターサポートすることで、より大きな成果が期待できる。	参加企業の状態が各社各様であり個別対応となったため、成功事例を横展開していくための類型化が必要である。今回の結果を元に、個別相談会の議事次第を整え、共通アプローチを見つけることで、より効率的な個別相談対応を確立することが肝要である。

各企業及び連携団体がプログラムを完遂し経営課題を解決することで、データ活用の有意性を理解し、取り組みの継続による更なる成果創出に意欲を示すに至る。

	成果	課題
③ 情報 連絡会	連携団体・コーディネータを通じて、全ての企業の状況や問題・課題をタイムリーに把握したことで、適宜必要な追加対応を行うことで、脱落なく活動報告まで導くことができた点は有益だったといえる。	研修と個別相談会が継続的に行われたことで、情報連絡会での定期確認の重要性が薄れた点、そのタイミングでコーディネータ支援に力点をシフトできなかったことで、情報連絡会の機会を有益に使いきれず、連携団体間でのコミュニケーションの活性化を醸成できなかったことは反省である。
④ コーディネータ 研修	コーディネータに過去事例、類似事例を伝えることで、担当企業への伴走支援のフォローができた点では、少ないながらも成果は出せたと考える。	コーディネータの期待とモチベーションに十分にこたえられず、企業の成果創出を優先したことで、クニエメンバが直接対応した結果、コーディネータの役割や位置づけを定義できず、不完全燃焼になってしまった点は大いに反省である。コーディネータを育成し地域に定着させる方針で、研修プログラムを見直す。

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

1.4. 総括と提言

① 知財戦略を踏まえたデータ活用計画策定・実証

国際社会における地域中小企業の保有情報（データ）の有益性と、侵害により被る影響を認識した上で、データ活用と知財活用の相関関係を理解する必要がある。知財戦略は企業が自助努力で進めつつ、連携団体は企業の状況を常に把握し支援の契機を逃さない、あるいは、企業に気づきを与えて掘り起こす、INPITや専門家へ適切なタイミングで引き渡すなど、知財戦略マネジメントを強化することが肝要である。

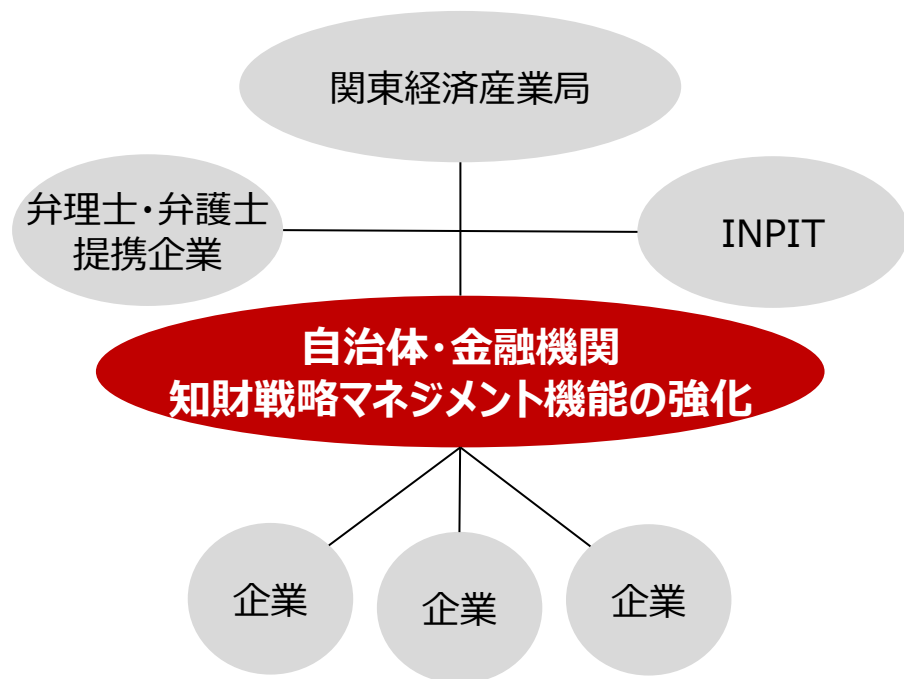
経済産業省 第四次産業革命に向けたデータ・知財の
利活用と保護について（平成28年12月）より

データベース等の保護に係る現行制度の課題

<現状の課題>

- 特許法上の課題
 - ・技術的な思想を有するデータ構造は保護されるが、当該構造を有しない、単なるデータ集合体等は保護されない
- 著作権法上の課題
 - ・創作性を有するデータ構成を有するものは保護されるが、単なるデータ集合体等は保護対象外
 - ・データベースの一部に改変を加えたものは保護されない場合がある
- 不正競争防止法上の課題
 - ・営業秘密の保護要件（秘密管理性、有用性、非公知性）を満たさないものは保護対象外
- 民法上の課題
 - ・適用範囲が狭い
 - ・差止請求権の規定が無い

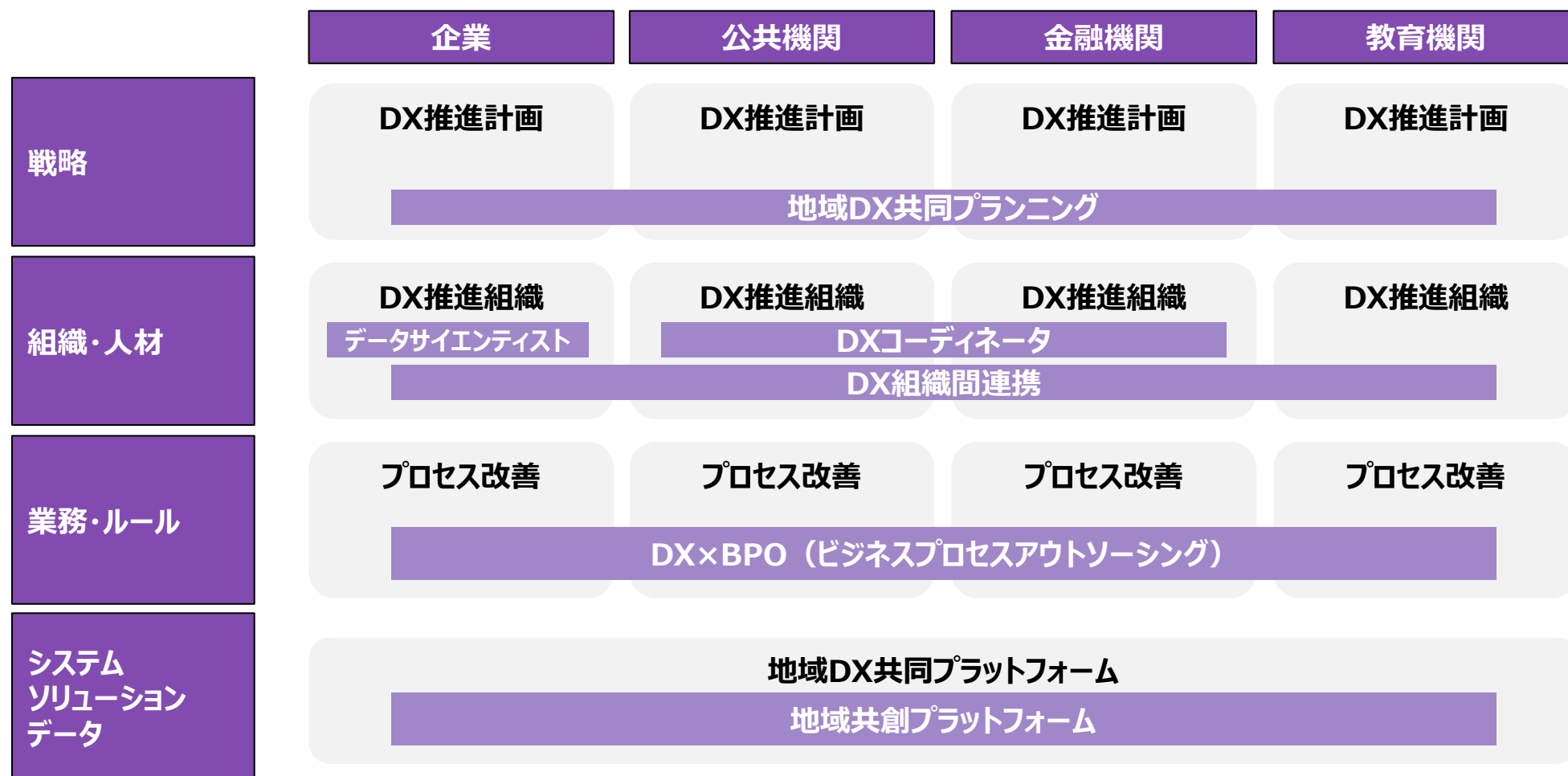
知財戦略マネジメントの関係者相関図



1.4. 総括と提言

② 国や自治体、金融機関の地域支援の在り方

国・自治体・金融機関による地域中小企業のDX推進における重要な要素として、DX専門組織の設置とDX人材の確保が不可欠である。中期DX戦略を策定し、組織機能を定義することで、人事異動や組織再編の影響を極小化し、永続的なDX推進することが肝要である。

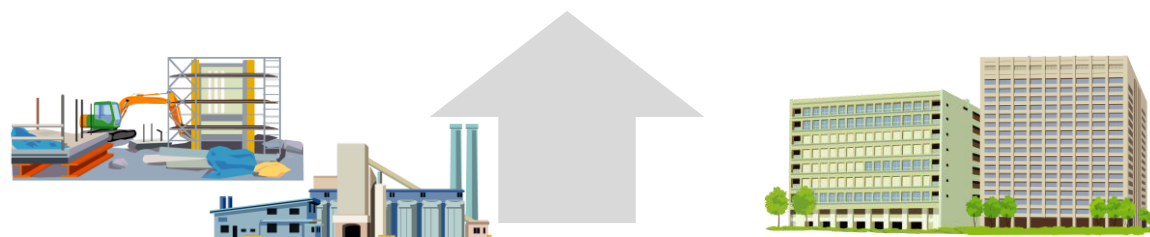


1.4. 総括と提言

③ データ活用人材育成支援のポイント

地域中小企業のデータ活用推進では、参加企業への支援と並行して、地域DXの推進役となるDXコーディネータの育成が必須事項となる。連携団体は、DXコーディネータを内外から人選し、段階的に増やしていく取り組みを計画的に実施することが肝要である。

民 = 市民



産 = 企業

官 = 行政機関

DXコーディネータ

学 = 教育機関

金 = 金融機関

地域デジタル社会の実現に向けた キーマンの育成

事業計画策定 DX戦略策定	国や県等の 補助金申請	情報システム/ ソリューション 調達
情報システム/ ソリューション 開発・運用	DX コーディネータ	BI・AI・ データサイエンス
デジタル マーケティング	プロジェクト マネジメント	事業・DX戦略 ・システム 評価

2. 事業報告詳細

2.1. 知財戦略

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.1. 知財戦略 1. 全体研修

① 実施内容

Step 1 では、講義を通じて、各企業様にデータ活用及び知財戦略を理解した。

第2回 知財戦略を踏まえたデータ活用を進めるための基礎知識			
講義		内容	講師
講義①	デジタル知財戦略	• 技術を収益化するためのメカニズムー 契約や知財戦略はビジネスを進めるためのツール • 知財戦略を活用してニッチトップへ • DX知財戦略の成功例 • DX知財戦略の具体的な進め方 • 特許制度とはどういうものか • 中小企業様向けのサービス	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 代表弁護士 鮫島 正洋 様
講義②	データの取扱いに関する法務的な考え方及び留意点	• 法律から見た「データ」とは • 「データ」の取扱いについて関係者間で何を合意（契約）すればいいのか？	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士 阿久津 匡美 様
講義③	Privacy by design の基礎を習得する	• 今回の事案 • 個人情報とは • 個人情報取扱事業者とは • 3つの情報類型と対応する義務	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士・獣医師 永島 太郎 様

2.1. 知財戦略 1. 全体研修

② 結果

デジタル知財戦略、データの取扱いの法的観点、個人情報保護に関する知識を習得した。

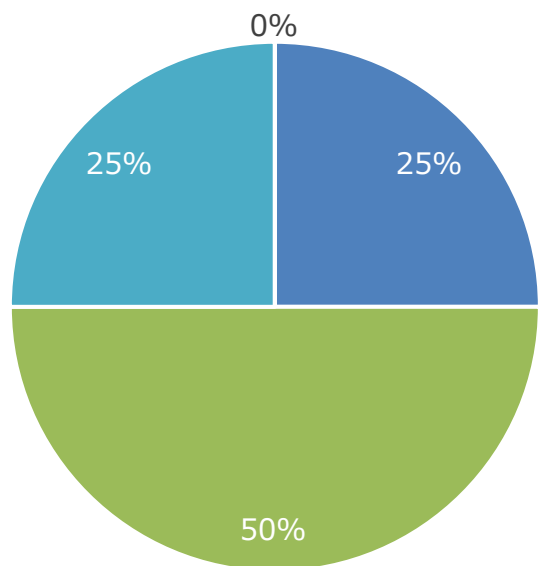
第2回 知財戦略を踏まえたデータ活用を進めるための基礎知識		
講義		実施結果
講義①	デジタル知財戦略	特許に関わる知識等を習得した。 • 特許の有効的な使い方 • 契約・知財・特許等活用して経営戦略への生かし方 • 新規事業を考えるうえでの利益の守り方など習得
講義②	データの取扱いに関する法務的な考え方及び留意点	データの取扱いに関する法的観点を習得した。 • データを法的に見た場合の取り扱いや所有権 • データに関する法律違反・契約違反の視点 • データの扱いに関する事前の取り決めの重要性
講義③	Privacy by design の基礎を習得する	個人情報の概念について習得した。 • 個人情報保護法などの法律に抵触しない個人情報取扱いの義務 • 個人情報の定義 • 防犯カメラの活用への留意点

2.1. 知財戦略 1. 全体研修

③ 評価

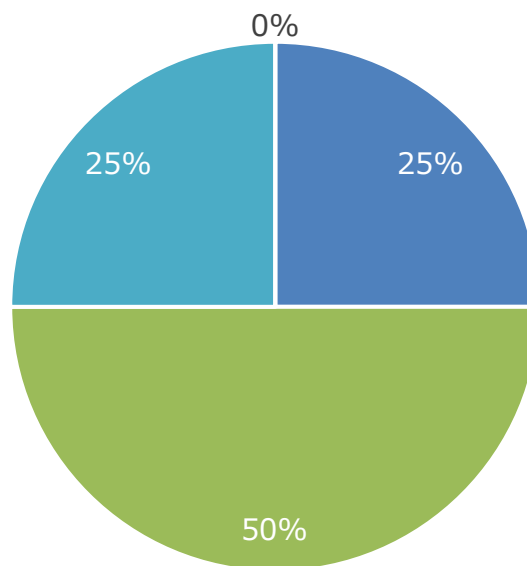
企業の業種、規模、デジタルリテラシ、体制、抱える経営課題など、置かれた状態により、差異は生じつつも、総じてデータ活用への意欲、知財の重要性、BIツール体験による活用方法の理解を得ることができた。

問 デジタル知財戦略（講義①）の説明内容及びテキストの感想はいかがでしたか？
(n=16)



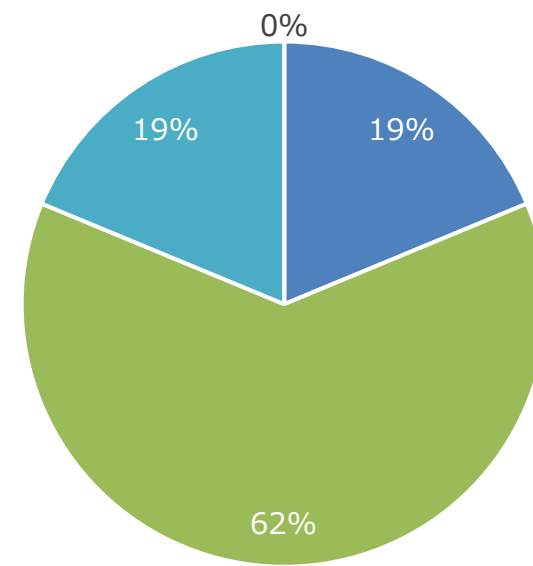
■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

問 データの取扱いに関する法務的な考え方及び留意点（講義②）の説明内容及びテキストの感想はいかがでしたか？
(n=16)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

問 Privacy by design の基礎を習得する（講義③）の説明内容及びテキストの感想はいかがでしたか？
(n=16)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

参加者の評価コメント（抜粋）

- データは自由に利用できるが、法的に守られている部分も多々あることを理解するとともに、改めてデータ、情報の取扱いには十分注意しなければならないことを認識した。
- データの所有権や、個人情報取り扱いについて、認識が深まり、概ね満足している。
- 商取引上で知らない（気付いていない）事が認識できた事。（自社利益をどうやって守るか？など）
- 既に取得出来ているデータをどのように扱えばよいか、不安な部分を解決する事ができた。
- 収益化や個人情報の取り扱いについて、本事業に関わらず企業として知っておかねばならない話が聞けたのが良かった。
- **特許についての見方が変わった。自社でも競合者が出てきた場合に安くなってしまう事が多いので、活用してみたい。**
- 特許の有効的な使い方、知らない部分をしることができた。
- **契約、知財、特許等活用して経営戦略に生かす話はあまりなかったので勉強になりました。**
- 何手も先を考えている弁護士さんだからこそのロジックはとても参考になりました。
- **DXはどれくらいビジネスの収益性アップに貢献するのか参考になりました。**
- 知財についての説明から経営戦略の考え方まで事例を含めた説明が興味深く、学びとなりました。
- **新規事業を考えるうえで、利益を守るための手段がいかに大切なのがよく分かった。**
- 漠然としていたデータを法的に見た場合の取り扱いや所有権などを知ることができた。
- **データに関して所有権的発想ではなく、法律違反・契約違反とならないかなどの視点が自分の思っていた部分と違う部分が多く意識の修正ができました。**
- **データの扱いに関する事前の取り決めの重要性がよく分かった。利益を守り、ひいては会社、顧客を守ることにもつながるので、本講義は大変参考になった。**
- データは所有権の対象ではなく自由に使えることが出来るが、法律違反、規約違反、関係者間における利用条件などに注意する必要があるなどケースに応じた対応・注意が必要であることが理解できた。
- 個人情報の概念について事例を交えながら詳しく説明していただいた。個人情報保護法などの法律に抵触しないように個人情報取扱いの義務を理解した。
- 防犯カメラは構内にも設置されており、データ取り扱い時の個人情報保護について、知識が深まりました。

2.1. 知財戦略 1. 全体研修

④ 課題と改善提案

知財戦略の検討は、活動計画書策定と合わせて行うことが望ましいため、講義の開催時期と個別相談会はStep 2 の期間内が最適と考える。知財戦略とデータ活用の位置づけと検討目的を明確化し、企業は何をすべきか理解することが重要である。

課題	課題詳細	改善提案
データ活用における知財戦略の必要性の醸成	- 知財研修の講義内容とデータ活用ブートキャンプの関連性の説明不足の見直し - データ活用の商用化の想定外と商標に関する内容の乖離 - データを活用したマーケティングと現在の業務内容との関連性の相違 - 情報取扱いに関する法的な注意点など、具体的な戦略イメージへの期待値との乖離	「内閣府 知的財産推進計画」などの活用した知財の必要性とリスクの啓発 - 知財戦略の構造化と各社の実務との対比
データ活用テーマ設定以降後の知財講義の開催	- データ活用課題及びテーマ未設定による知財の必要性の理解不足 - 知財研修講義の実施タイミングの見直し - 観光業における知財戦略のイメージの説明不足の解消（製造業の凡例のため） - 抽象的な概念の説明ゆえの現場で知識が必要になるケースとの乖離	知財研修のStep 1 からStep 2 への変更
知財講義内容の見直しによる参加者の理解度の向上	- 講義視聴者に考える時間の余裕の確保 - 講義スピードの速さと資料スライドの遷移の改善（「次お願いします」の多用 など） - 個人情報管理の仕方の詳細説明の不足	- オンライン研修開始前の動作検証の徹底 - 講義論点の精査による研修テキストの圧縮

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

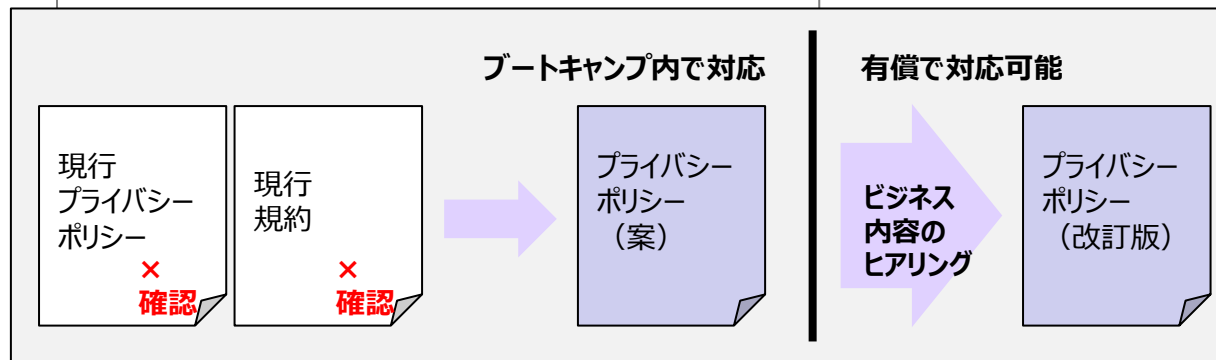
1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.1. 知財戦略 2. 企業別個別相談会

① 実施内容 ② 結果

知財戦略に関する個別相談を希望した3社は、各社の課題を解決し、対応策を理解できたことで、効果的かつ高い満足を得ることができた。

参加企業	相談内容	対応結果	対応時間	対応者
A社	<相談①> A社は、顧客データや売上データを分析し、販売強化施策を検討している。データ活用活動計画を個人情報の取り扱いについて、アドバイスが欲しい。 <相談②> 商標を勝手に利用されている場合に、急ぎ措置が必要かアドバイスが欲しい。	<相談①> ・ 現行プライバシーポリシーと規約への指摘（内容の混在・重複・無効など） ・ 改善案を作成 <相談②> ・ INPITとの協議の結果、現時点では、急な対応はせず、状況注視と判断。	・ オンライン：1時間×2回 状況確認、法的見解、対応提言 ・ 資料レビュー：1.5時間 プライバシーポリシー、規約 ※商標は、INPITへ紹介	弁護士法人 内田・鮫島 法律事務所 弁護士・獣医師 永島 太郎 様



2.1. 知財戦略 2. 企業別個別相談会

① 実施内容 ② 結果

知財戦略に関する個別相談を希望した3社は、各社の課題を解決し、対応策を理解できたことで、効果的かつ高い満足を得ることができた。

参加企業	相談内容	対応結果	対応時間	対応者
B社	<事業形態> グループ企業のb社は、定期販売・配達事業者のネットワークを活用し、定期配達と併せて、紙のチラシをポスティング配布し、食品の販売を実施している。顧客は、定期販売・配達事業者へ注文を行い、b社は定期販売・配達事業者より注文を受け、納入しているため、顧客の住所、氏名などの個人情報を受け取っていない状況である。 <要望> 広告効果を図るために、チラシから食品を購入した顧客（70代が中心）に対して、アンケートを実施したいと考えている。 <相談> アンケートでどこまでの情報を取得して問題ないか、またアンケートを実施する際に個人情報保護法の観点での注意点等アドバイスが欲しい。	<相談> ・アンケートの対応案を提示	オンライン：1時間/回 状況確認、法的見解、対応提言	弁護士法人 内田・鮫島 法律事務所 弁護士・獣医師 永島 太郎 様

2.1. 知財戦略 2. 企業別個別相談会

① 実施内容 ② 結果



知財戦略に関する個別相談を希望した3社は、各社の課題を解決し、対応策を理解できたことで、効果的かつ高い満足を得ることができた。

参加企業	相談内容	対応結果	対応時間	対応者
C社	<事業形態> C社は、独自のノウハウで、特注品を生産している。 <課題> 特許とは縁遠いと考えていたが、近年、取引先から図面や工程表が流出して、競合他社が出てきてしまい、適正な利益幅を確保できる期間が極端に短くなってきている。 <相談①> 知財研修の講義を聞いて、自社で特許を取ることで、適正な利益幅を確保できる期間が長くなるのではないかと考えた。 可能であれば、製造している部品について特許を取得できるのか、相談したい。 <相談②> 特許を取得した際の当社にとってのメリット、デメリットを知りたい。	※ 本事業ではINPIT紹介で完了		

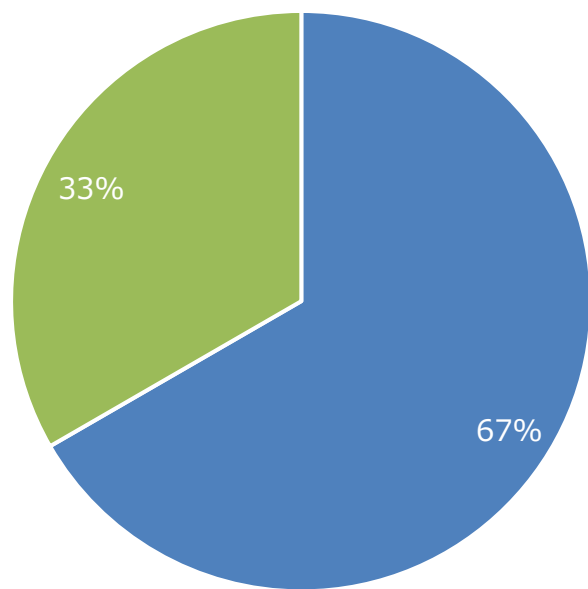
2.1. 知財戦略 2. 企業別個別相談会

③ 評価

知財戦略を踏まえたデータ活用の予定は3割強がありと回答。一方で、7割の企業が、知財戦略を想定したデータ活用の前段階にあるため時期尚早との見解を示している。連携団体は自らの支援は想定していないが、知財戦略の支援をINPITや各団体と関係のある知財専門家、提携先に委ねており、支援方法が確立されている。

<参加企業>

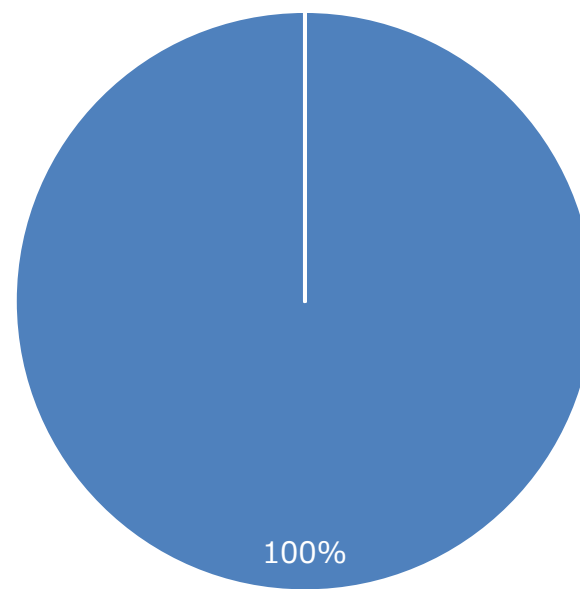
問 知財戦略を踏まえたデータ活用の予定はありますか？（n=15）



■ 2. なし ■ 1. あり

<連携団体>

問 知財戦略を踏まえたデータ活用支援の予定はありますか？（n=12）



■ 2. なし ■ 1. あり

参加者の評価コメント（抜粋）

- 顧客属性情報の取得、分析、営業へ活用していきたい。
- 実績を掲載し、お客様の不安解消や認知度、サイトのSEO向上
- 商品別販売売上データ、地域別販売データ活用による営業強化。
- お客様の年齢、性別等の個人情報による売り上げの違い等の分析に期待したいです。
- 商圏の確保、ノウハウの模倣防止、競合他社の安価参入の抑止など。

2.1. 知財戦略 2. 企業別個別相談会

④ 課題と改善提案

企業のデータ活用に伴う知財戦略の議論の活性化と、そのための連携団体及び専門家の支援の在り方を定義し、保有データの知財上の価値を認識し、保護する仕組みを構築することが肝要である。

課題	課題詳細	改善提案
参加企業の知財戦略への理解向上	・ 社内で抱える課題解決の優先による知財戦略を検討するための社内リソース不足の解消 ・ 知財検討が時期尚早なデータ活用の初期レベルからの脱却 ・ 知財に関する社内の意識不足の解消 ・ 革新的な戦略立案（製品・サービス）への知財戦略の検討 ・ 生産現場の可視化・DX化と外部との権利関係とのズレ	・ 参加企業への知財研修の強化（演習、ワークショップの導入）
連携団体の知財戦略への地域支援のスタンスの改善	・ 参加企業の知財検討ニーズと適切なタイミングの把握 ・ 知財戦略を踏まえたデータ活用ニーズを有する企業への支援方法の確立 ・ 知財戦略への知識不足の解消と戦略立案力の強化（法的範囲と法的外範囲、データ化と知財の関係性） ・ 知財戦略ファシリテーション（提携企業、専門家との連携は確立） ・ 知財戦略を意識する中堅規模の地域の対象企業数の不足 ・ 企業独自の必要に応じた外部委託による対策	・ 連携団体・コーディネータへの知財研修の（演習、ワークショップの導入）強化 ・ 知財対象チェックシート・チェック項目の整備

2.2. データ活用

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

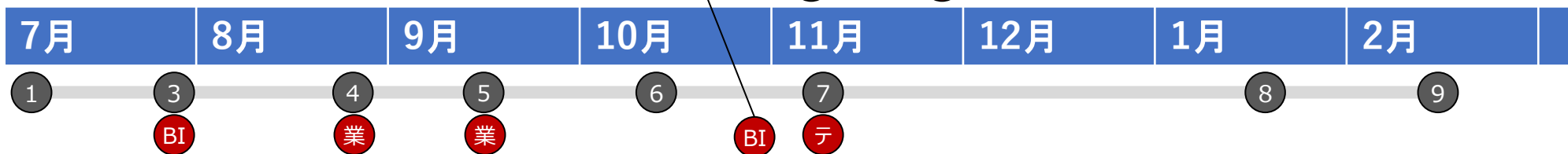
2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.2. データ活用 1. 全体研修

① 実施内容

全体研修は、Step 1、Step 2、Step 3 にて各3回計 9 回の全体研修では、講義とワークショップをオンラインで実施した。
※ BI補足研修のリアル開催 ● 講義 ● ワークショップ（業：業務別、テ：テーマ別、BI：ツール研修）



「データ活用・知財」研修



- データ活用で出来ること、その使い方を理解する
- データ活用による知財戦略の考え方を理解する
- データ活用ツールの利用方法を習得する

「活動計画書」作成



分析系

- あるべき姿の定義、課題の定義
- 課題はデータ活用で解決でき、十分なビジネスインパクトを有するか

可視化系

- 利用目的、シナリオは明確になっているか
- 可視化に必要なデータは充足しているか

Step 2 報告



- 活動計画書を元に発表する

実証実験



- 活動計画に基づき、検証を行う
- 分析トライアルや施策テスト、企画精度アップの為の研究や調査を行う
- グループディスカッションにて、意見交換する

Step 3 報告



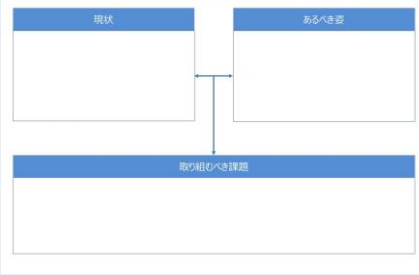
- 実証結果を元に最終報告を発表する

2.2. データ活用 1. 全体研修

① 実施内容

<データ活用活動計画作成>



手順1	手順2	手順3	手順4								
ワークシートによるデータ活用に関する課題・データの事前整理	データ活用企画の全体像の整理	可視化/分析対象データを基に、可視化/課題解決の方法を明確にする	必要なタスクを整理し、スケジュールに落とし込む								
活動計画ワークシート：#1-課題整理シート  活動計画ワークシート：#2-データ活用整理シート <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th><th>可視化/分析イメージ</th><th>データ</th><th>加工/分析方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データ活用によって解決したい課題</td><td>データの可視化や業務での分析イメージ</td><td>必要なデータおよび入手方法</td><td>可視化/分析イメージから加工/分析方法を選択</td></tr> </tbody> </table>	課題	可視化/分析イメージ	データ	加工/分析方法	データ活用によって解決したい課題	データの可視化や業務での分析イメージ	必要なデータおよび入手方法	可視化/分析イメージから加工/分析方法を選択	活動計画書：#1-全体像の整理 	活動計画書：#2-可視化/分析対象データ  活動計画書：#3-業務効果イメージ  活動計画書：#4-可視化/分析の詳細 	活動計画書：#5-タスク整理  活動計画書：#6-スケジュール (Step 3 報告まで) 
課題	可視化/分析イメージ	データ	加工/分析方法								
データ活用によって解決したい課題	データの可視化や業務での分析イメージ	必要なデータおよび入手方法	可視化/分析イメージから加工/分析方法を選択								

Step 2 報告発表

2.2. データ活用 1. 全体研修

① 実施内容



<データ活用活動計画実証>

第7回

第8回

第9回

手順1

検証に基づき、データ活用活動計画書を更新

手順2

エグゼクティブサマリを作成

Step 3 報告エグゼクティブサマリ (実際の取り組みテーマについて)

テーマ	対象業務/領域
1. 実証計画と成果	✓ 実証推進中の課題と実施した対応 ✓ 成果と自己評価
2. 振り返り、活動計画	✓ 必要に応じて変更し、実際に取り組んだテーマ (実証計画) ✓ 今後の活動計画

手順3

自己評価・振り返り

Step 3 報告発表

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

各企業が抱える経営課題を可視化し、経営・業務に資するデータ活用テーマを設定することで、効果的かつ継続性の高い活動計画を作成し、データ検証による一定の成果を導出できた。

連携団体名		参加企業名	テーマ名
前橋市		株式会社花助	顧客のLTVを高める為の施策検討とそのための分析環境の整備
		株式会社吉田鉄工所	(非公表)
三島信用金庫		株式会社フジコー	来場者の顧客属性の把握と属性ごとのニーズに応じた効果的な販売促進の確立
		株式会社山本食品	出荷予測、在庫管理、直営店のバス台数による売上予測
		加和太建設株式会社	道の駅 物産販売店の売上アップ
埼玉県DX 推進支援 ネットワーク	埼玉県信用金庫	株式会社ヒタチ	生産効率改善（段取作業の標準時間設定とマニュアル作成）
			営業会議資料の作成
	株式会社 埼玉りそな銀行	昭和工業株式会社	適正な管理
	株式会社 武蔵野銀行	東洋パーツ株式会社	購買業務の多能効果及び情報の可視化
株式会社八十二銀行		株式会社ミールケア	顧客/管理データの利活用
		株式会社丸眞製作所	付帯作業時間の削減による生産効率の向上
		塚田理研工業株式会社	売上、利益（損益）の分析。（加工履歴からの不良分析）
松本市・一般財団法人 松本ものづくり産業支援センター		日穀製粉株式会社	デジタル管理（ペーパーレス）と見える化を進め、生産性向上を実現する。
長野市・長野商工会議所		株式会社竹村製作所	(非公表)
		飯島建設株式会社	顧客の行動履歴分析から成約パターンの可視化
市原市・市原商工会議所		株式会社諏訪商店	商品販売管理と財務諸表項目詳細の可視化
		みどり産業株式会社	車両修繕費の予実管理
			SNSの効果の見える化

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

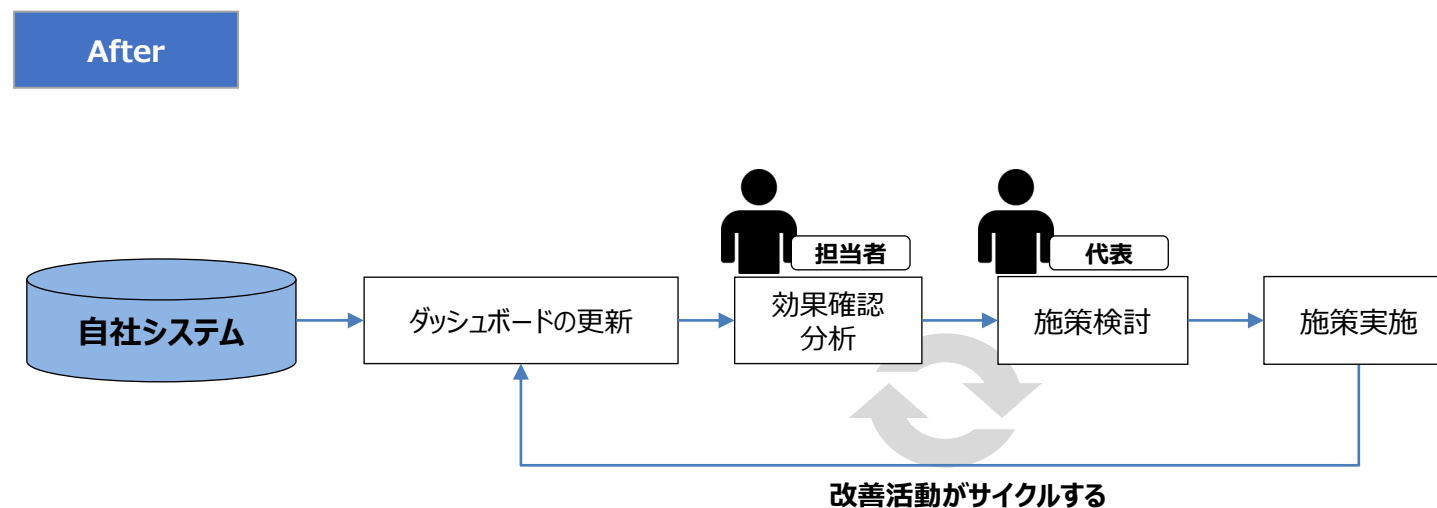
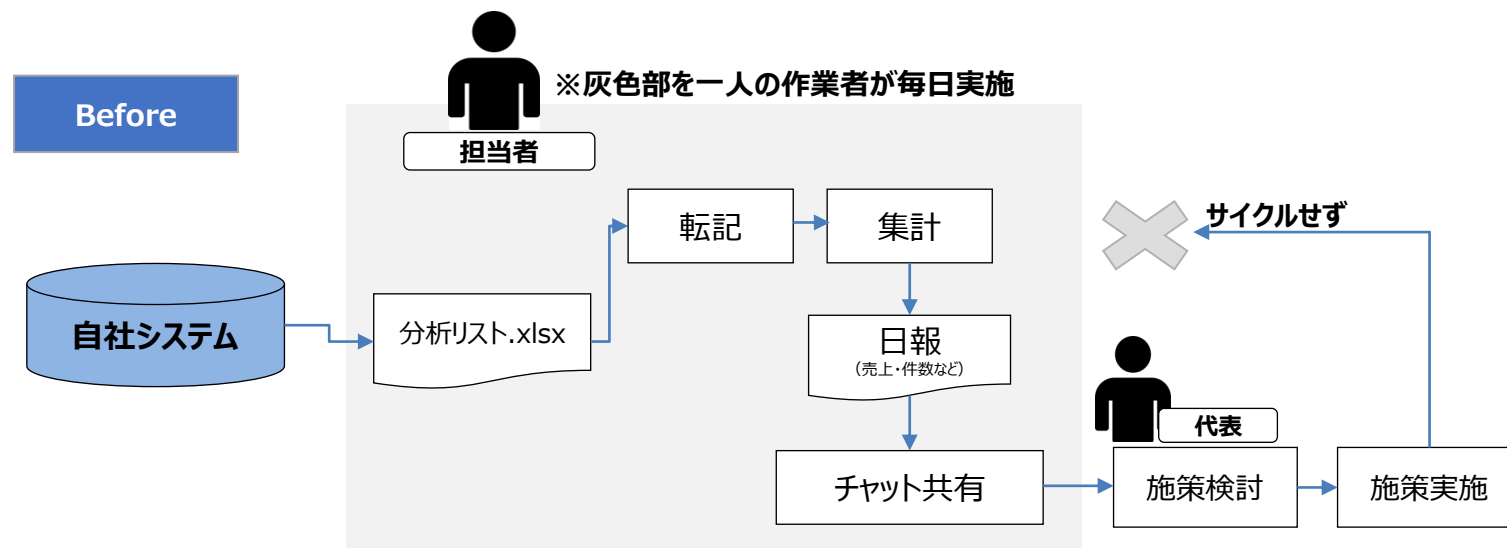
【事例①】営業・経理系：株式会社花助 様

テーマ	顧客のLTVを高める為の施策検討とそのための分析環境の整備		
対象業務/領域	CRM、顧客分析		
【あるべき姿】	【現状とGAP（/原因）】		
	一言でいうと	▶ ・システムに蓄積された顧客・注文データを施策検討への活用できていない。 ・分析するのにExcel間の転記等があり、負担が大きく継続的な実施が難しい。 ・実施した施策の効果測定ができる体制になっていない。 ▼	
	顧客の特性分析の結果を日々取得し、LTV高めるための施策を検討できる状態		
	誰が、どう、うれしい？		
花助の従業員が -最新情報を基に、ビジネス施策を検討できる。	【GAPを埋める解決策】		
どの指標にどの程度貢献する？	・システムに蓄積された顧客・注文データを自動更新・出力される仕組みの構築 ・LTVの高い顧客の特性を分析し、施策検討ができるダッシュボードを作成する ・KPIを設定し、それらをウォッチできるダッシュボードを作成する		
指標：売上 一度きりの顧客が全体の大半を占めるため、LTVを向上させ、売上20%改善につながる。			
短期目標	・顧客分析のダッシュボード作成、運用 ・自動更新の仕組み構築		
中期目標	・分析結果を踏まえた施策の実施 ・施策に関するPDCAサイクルを回す ・LTVを向上させ、売上20%改善につながる。		

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

【事例①】営業・経理系：株式会社花助 様 1/2



2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

【事例①】営業・経理系：株式会社花助 様 2/2

【GAPを埋める解決策】_詳細

課題/メモ

<LTVの高い顧客分析にフォーカスしたダッシュボード>

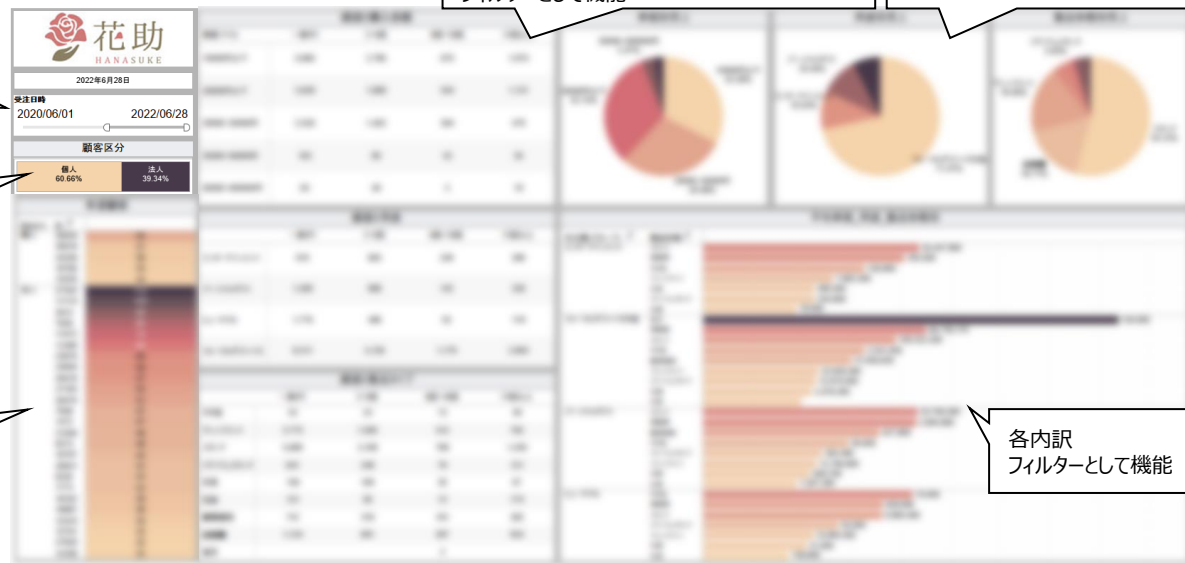
リピート回数とvs価格帯、用途、製品タイプ。数値は注文件数フィルターとして機能

売り上げの各内訳フィルターとして機能

分析期間を指定

法人・個人の内訳フィルターとして機能

顧客IDから期間内の購入回数をで順位付け



各内訳フィルターとして機能

- ダッシュボードが日々更新されるように設定
- 現状、システム制限で人の手の介入が必要のため対策を別途検討が必要
- 一旦のたたき台のため、施策検討踏まえて必要項目を追加
- 売上貢献度が高いものに重要視するため、円グラフ、棒グラフは売上。

<分析結果イメージ>

- ・ダッシュボードに盛り込んでいる切り口を組み合わせで気づきを整理する
※購入回数、用途、商品の価格帯、購入頻度、顧客区分（法人・個人）
 1. 個人が購入する〇〇という製品は低価格帯に集中している。
 2. ××用途の製品は、リピート率が低く、高価格帯の払い出しが少ない
- ・顧客特性を踏まえての製品、販促施策を検討する
 1. リピート率の低い▽▽という製品にも低価格帯を出し、入り口商品としてHPの先頭に持ってくる
 2. ××用途の高価格帯製品の絞り込みを行い、中価格帯の拡充を行う など

- 広告、販促製品タイプ価格帯等の観点で施策の洗い出しを行う

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

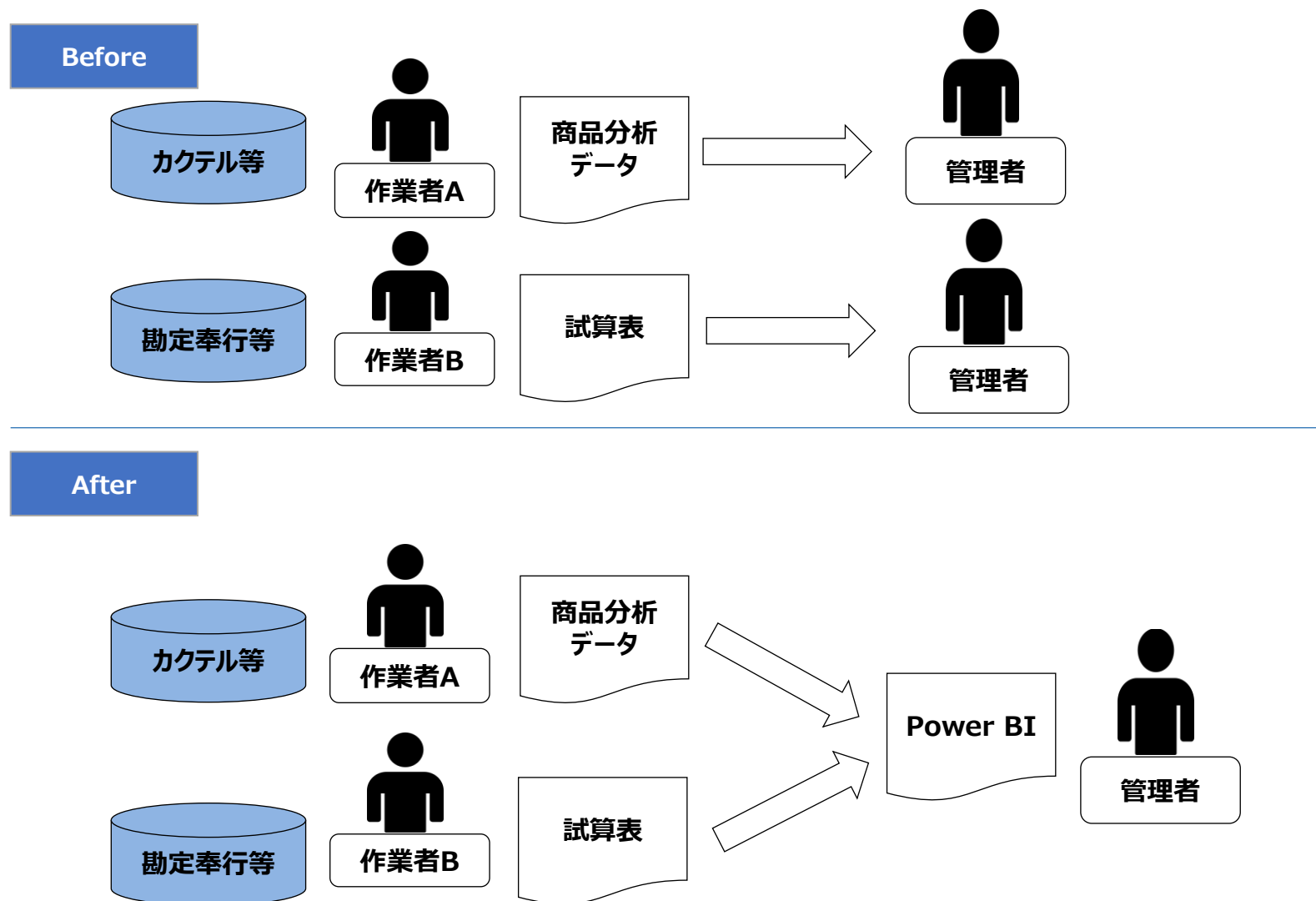
【事例①】営業・経理系：株式会社諏訪商店 様

テーマ	商品販売管理と財務諸表項目詳細の可視化		
対象業務/領域	商品販売領域、会計領域		
【あるべき姿】	【現状とGAP（/原因）】		
	一言でいうと	・商品分析データと財務分析データが別々で管理されていて連動性が損なわれている ・部門別の把握がしにくい状況 ・グループ全体の把握がしにくい状況 ・商品分析データ＝商品管理ソフトのカクテル or スマイルの活用 ・財務分析データ＝会計ソフトの勘定奉行 or Freee or TKCの活用	
	誰が、どう、うれしい？	▼	
	経営者や部門責任者の意思決定に役立つ	【GAPを埋める解決策】	
	どの指標にどの程度貢献する？		
	・商品分析データと財務分析データの融合 通常の試算表の売上をクリックしたらその部門別の商品別といった情報がはあできるようにする 同一のPowerBIの中に商品分析データと財務分析データがあることで連動性を確保する。 ・部門別の情報把握を行う 部門別商品分析、部門別FS ・グループ全体の把握を行う ・時間軸で分析 ・原価比較		
短期目標	部門別の短期意思決定に活用できるようにする		
中期目標	会社別・グループ全体の経営計画に活用できる情報提供		

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

【事例①】営業・経理系：株式会社諏訪商店 様 1/2



2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

【事例①】営業・経理系：株式会社諏訪商店 様 2/2

【GAPを埋める解決策】_詳細

商品分析データ (After) Power BI活用

販売管理ソフトから商品販売のデータをExcelデータとして出力。
それをPowerBIにとりこみ商品選定に生かしたり、先月のリワークを行う。



前頁のExcelの問題点を解消

•異なるデータソースがある場合に連携しにくい
→商品マスタ、仕入先マスタ、得意先マスタ、売上データ、チラシデータ、財務データ、仕訳データの7つのExcelファイルを読み込み連携

•データ増えすぎるとデータが重くて機能しなくなる
•また、データが重い場合の処理速度が遅い
→PowerBIであればこれらは問題なし

•データ分析がExcelの場合、自分での指示が必要になるため人を選ぶ
→グラフにポイントをあてただけで詳細を表示したり、クリックするだけで詳細な数値を確認できるので、誰にでも使いやすいデータになっている。

課題/メモ

- ビジネス上の課題
- 技術的課題
- その他課題/気になる事

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

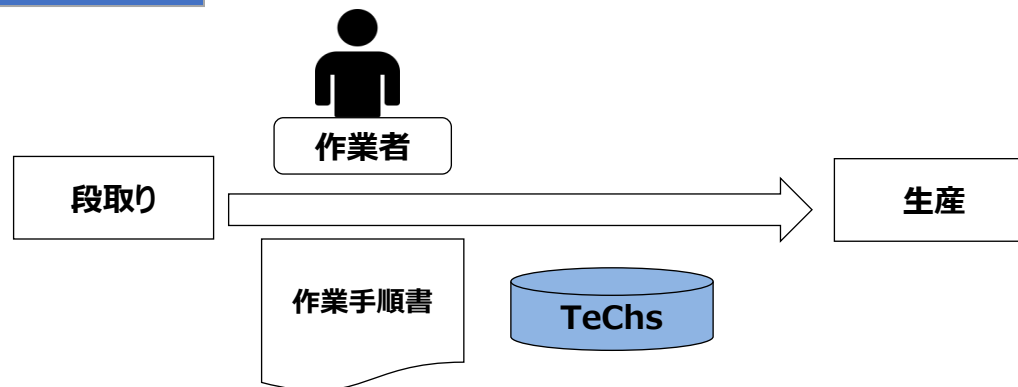
【事例②】製造系：株式会社ヒタチ 様

テーマ	生産効率改善（段取作業の標準時間設定とマニュアル作成）		
対象業務/領域	製造工程/段取工程標準時間の算出と、作業手順書への時間記入		
【あるべき姿】		【現状とGAP（/原因）】	
一言でいうと		★生産管理システムに大体の段取標準時間しかなく、作業者の力量による所が大きいため生産計画が大雑把になる。 ★作業効率改善の効果測定が定量的に出来ない。⇒前段取準備による効率アップ程度にとどまっている。 ★担当者毎に違うやり方をしている為、標準が無い。⇒ 他者工夫の見える化や共有化が可能になった ★引継ぎ作業や熟練工の技能伝承が上手く行っていない ⇒ 動画撮影をすることで指導側の教育にもなる（前準備や用語の統一など） ★暫く時間が空いた製品の段取は手さぐりになり、時間がかかる。	
★作業標準書を標準時間を入れて作成し直す 現在ある生産管理システムの運用に活かす			
誰が、どう、うれしい？		【GAPを埋める解決策】	
★作業者の標準タイム確立とノウハウの継承 ★新人社員の研修資料作成 ★改善テーマが出来る為、教育訓練に活かせる ★力量が定量的に判断できる（時間）		★IEソフトの導入により標準時間入りの作業標準書と動画マニュアルの作成 ⇒ PowerPointにすることで編集が簡単になった ★ムダ取り作業の検討と確からしい作業手順の確立（余裕時間の短縮）⇒ 普段の作業への問題提起になった ★業務品質の向上を目指す。再発防止策の作業標準書へのフィードバック（画像などの補足情報も）⇒ 他者（編集者など）目線での改善項目が出てきた ★改善風土の熟成を図る（オウム返し対策の見直し） ⇒ 不具合対策の動画記録 ★生産管理システムの保有データ活用、技術的改善課題の抽出 ⇒ ワーク作業とオペレータ作業の分離を検討する	
どの指標にどの程度貢献する？			
★段取作業標準時間の確立と30%短縮⇒継続目標とする ★手順の標準化確立 ⇒ 段取り注意点の指示など言葉や文章では伝え辛かった所の記録			
短期目標	作業効率改善 ⇒（調整工具の工夫）段取り時間削減⇒ 調整工具の工夫、検査時間30%削減など ⇒ IM、LM、VHXの活用		
中期目標	重要アイテムの作業標準完成（売上比率70%目標）⇒ 動画撮影は達成した（更に質の向上を目指す） リモートでの作業指示や相談など（製造スタッフのリモートワーク挑戦など）⇒ テレビ電話とスプレッドシートにて事例あり（ツマミ・ドラム軸、など）		

【事例②】製造系：株式会社ヒタチ 様 1/2

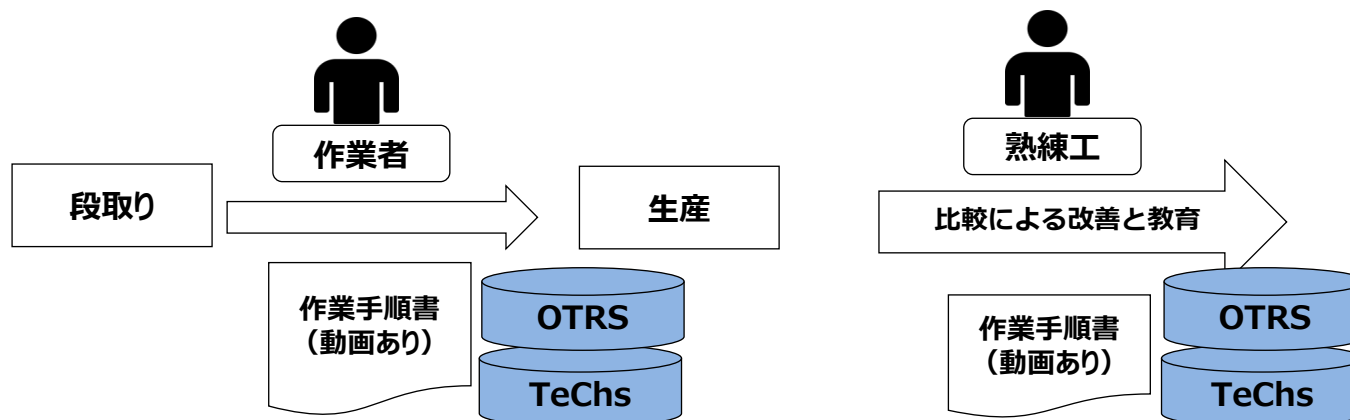
Before

- ★標準時間が無いままに段取作業開始
- ★前準備（工具、治具）などが出来ていない



After

- ★目標タイムの設定 ★事前準備項目の抽出
- ★作業計画の順守率向上。 ★引継ぎ資料、熟練工のノウハウ継承



【事例②】製造系：株式会社ヒタチ 様 2/2

【GAPを埋める解決策】_詳細

★全体イメージ

作業標準書の作成、動画マニュアルにて作業手順の補足。引継ぎ、教育訓練、スキルアップとして利用

★項目詳細

動画マニュアルの録画と作成

ムダ取りの検討

★必要リソース

OTRS（IEソフト）、動画トリミングソフト、TeChsBK（生産管理システム）

撮影機材：

▲ GOPRO ⇒ データ量が大きくなってしまふ

○ ORDRO ⇒ 画角調整が難しいが、軽くて手軽に撮影できる（ヘッドセットカメラ）

▲ 携帯 手軽だが、片手が塞がるので両手作業時には固定台かもう一人必要になる

※動画編集ソフトがあった方が良い。先に不要な部分を削除してからOTRSに取り込む。

TeChsにどうファイリングするのか？ ⇒ 参考資料フォルダの利用

実際にドキュメント検索にたどり着けるか？ ⇒ 参考資料フォルダの利用

継承するために、デジタルデータに残しておく事が今の時点では肝要である。

課題/メモ

- ビジネス上の課題
- 技術的課題
- その他課題/気になる事

OTRS（プロードリーフ社）
・トリミングソフトの選定

- ★要素の名称選定
- ★検査・調整は別取りにする
- ★前準備の設定（必要工具や治具などの洗い出し

1 電源ブレーカーをONにする

ST

0:00:21



重要度

小

電源ブレーカー 右から

チラー、エアコン、チラー・エアコン電源、IDS-mini

を右側から順に下から上に上げて全ての電源をONにする。

※ON状態になっているか確認してから電源ブレーカーの扉を閉める事。

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

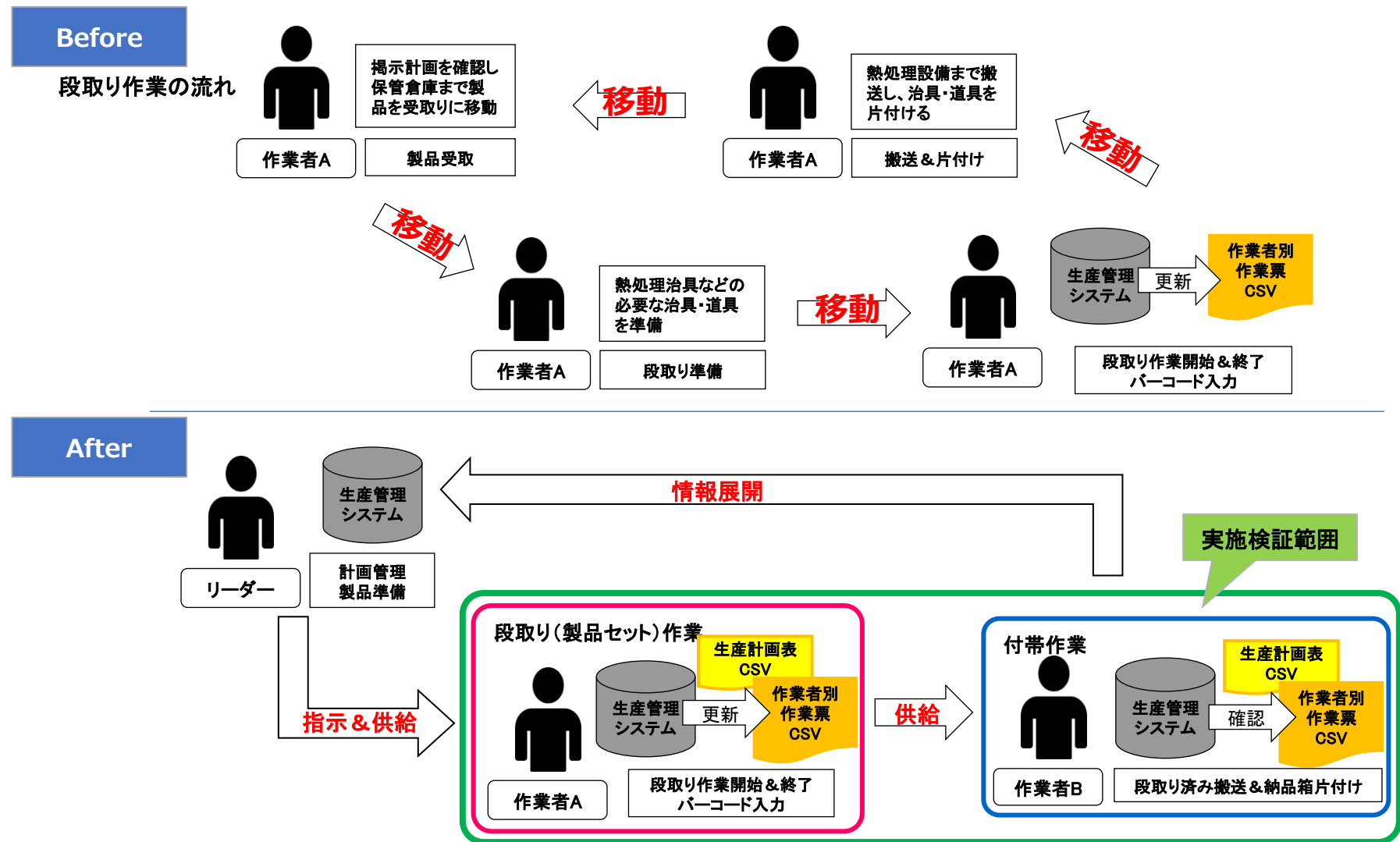
【事例②】製造系：株式会社丸眞製作所 様

テーマ	付帯時間の削減による生産効率の向上				
対象業務/領域	手作業（段取り）業務				
【あるべき姿】	【現状とGAP（/原因）】				
	一言でいうと	◎ 作業者の能力・スキルで何とかしようとしているため生産効率が思うように向上しない 仮説：付帯作業が段取り作業効率に影響を及ぼしている可能性がある ※ 製品を熱処理治具へセットする作業以外を付帯作業と定義			
	誰が、どう、うれしい？	【想定される付帯作業】 ムリ：倉庫からの製品受取り、熱処理設備までの運搬(重量物)作業がキツイ ムダ：使用したい治具が定位置になく探す手間がある等（置き場所のルールが継続的に厳守されていない） ムラ：代用できる治具が判断できない等（経験値が必要）			
	どの指標にどの程度貢献する？	【GAPを埋める解決策】 ○現状把握 付帯作業の内容及び所要時間等のデータベース化とGAPを埋める仮説の設定 ○仮説の検証1 付帯作業の専任(分業)化により、段取り作業に集中できる環境をつくる（作業効率の検証と新たな課題の抽出） ○仮説の検証2 効率的な段取り作業環境をつくる(仮説検証1の実施感想と課題に基づいた具体的活動の企画)			
短期目標	付帯作業の圧縮による生産性の効率化に向けた指針の立案（付帯作業を圧縮できる最適なレイアウトの具現化）		中期目標	段取り者に関わる付帯作業時間：30%削減（生産能力：8%向上）	

2.2. データ活用 1. 全体研修

② 結果

【事例②】製造系：株式会社丸眞製作所 様 1/3

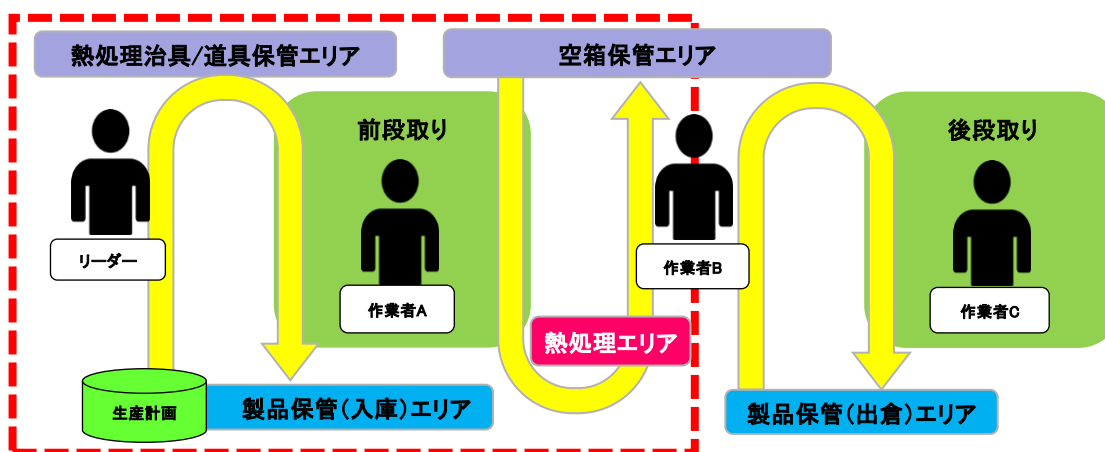


【事例②】製造系：株式会社丸眞製作所 様 2/3

【GAPを埋める解決策】_詳細

課題/メモ

■ 全体イメージ



■ ビジネス上の課題
・誰が、いつ、どのようにデータ収集を行うか？
→IE手法の活用

■ 技術的課題
・生産計画とリンクした進捗監視システムが必要

■ その他課題/気になる事
・データの収集方法
→IE手法の活用

■ 分析項目詳細

動作細目	種類	数量	目的地	時間	距離	動線	保管場所	手待ち
製品の受取・運搬			○	○	○		○	○
熱処理治具の用意	○	○	○	○	○	○	○	○
段取り用パレットの用意	○	○	○		○	○	○	○
段取り製品の運搬			○	○	○	○		○
客先コンテナの片付け	○	○	○	○	○	○	○	○
補足情報	総数	総数	ブロック化	秒単	歩数	パターン化		時間

■ 必要リソース

- ・段取り作業の進捗状況をリアルタイム表示できるシステム
- ・付帯作業を段取り作業から分離する手法/手段
- ・レイアウトとスペースの確保
- ・効果に対するインセンティブづくり

2.2. データ活用 1. 全体研修

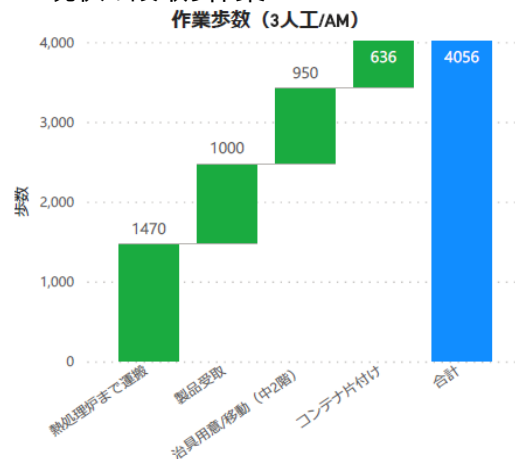
② 結果

【事例②】製造系：株式会社丸眞製作所 様 3/3

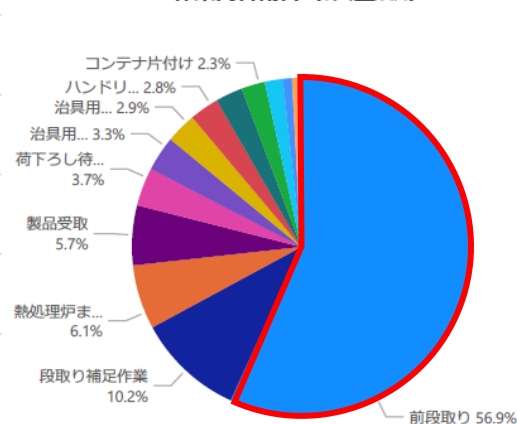
【GAPを埋める解決策】_詳細

課題/メモ

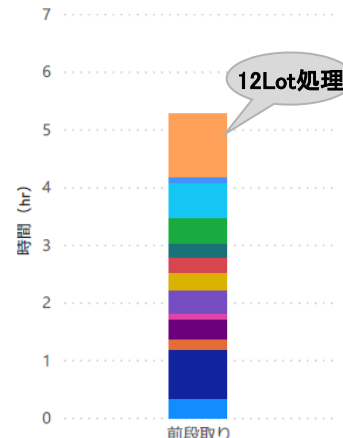
■ 現状の段取り作業



作業内容割合 (3人/AM)



処理能力 (3人/AM)



■ ビジネス上の課題

- ・付帯作業の専任化は経験値に頼る部分が多く、肉体的負荷も大きい
- ・動作性/動線を考慮したスペースの活用ができていない

■ 技術的課題

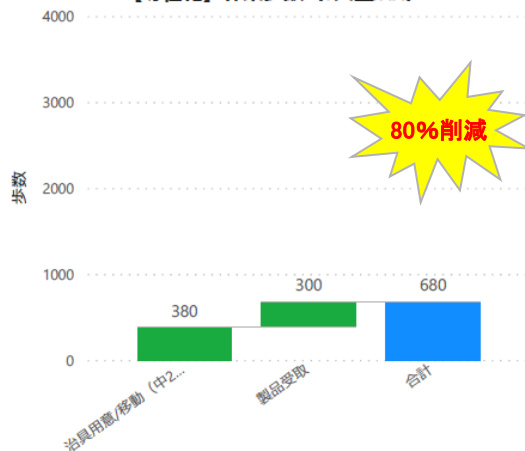
- ・搬送の自動化
- ・作業スペースの拡張

■ その他課題/気になる事

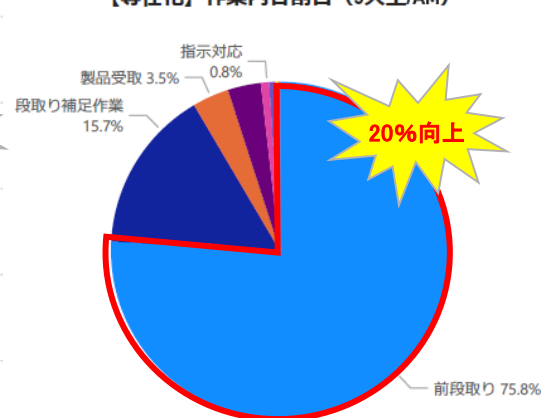
- ・必要/不必要な備品が明確化できていない
- ・歩数と作業効率に負の相関性があり、動線を最適化したレイアウト設計が必要

■ 付帯作業の専任化

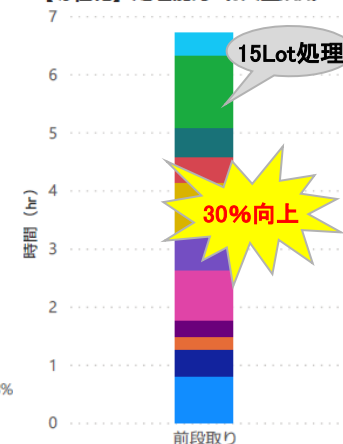
【専任化】作業歩数 (3人/AM)



【専任化】作業内容割合 (3人/AM)



【専任化】処理能力 (3人/AM)



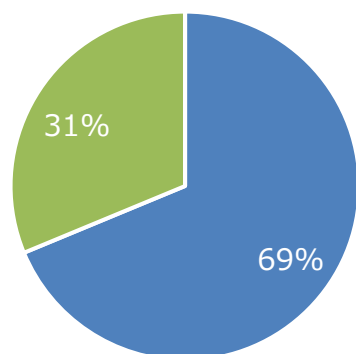
2.2. データ活用 1. 全体研修

③ 評価

研修全体を通して、参加企業及び連携団体ともに、高い満足を得ることができた。

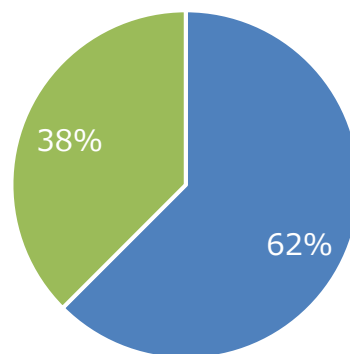
問 研修全体を通しての感想はいかがでしたか？

＜参加企業＞ (n=16)



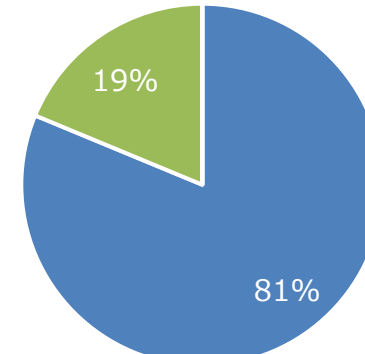
問 本研修は貴社のご期待に対して充足した内容でしたか？

＜参加企業＞ (n=16)

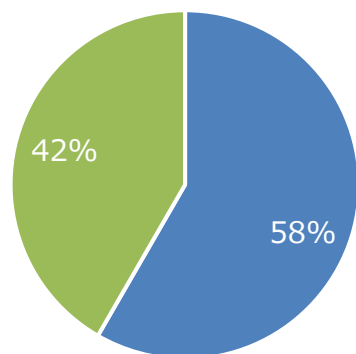


問 本研修は貴社のデータ活用を推進していく上で有益な内容でしたか？

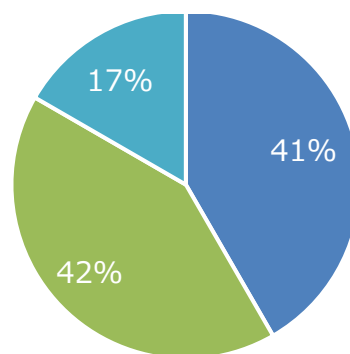
＜参加企業＞ (n=16)



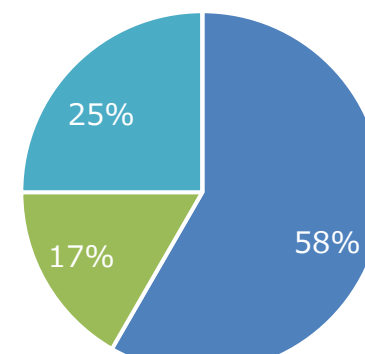
＜連携団体＞ (n=12)



＜連携団体＞ (n=12)



＜連携団体＞ (n=12)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

■ 4.充足 ■ 3.概ね充足 ■ 2.あまり十分でない ■ 1.不十分

■ 4.有益 ■ 3.概ね有益 ■ 2.あまり役に立たなかった ■ 1.無益

参加者の評価コメント（抜粋）

- 外部（第三者）からの見た社内のシステムのご助言はとても良かったです。部分的なソフトの営業は多いのですが、**全体を見直すのにより機会でした。**
- 対面で相談させていただき、新しい発想や分析方法を教えていただき、活動の方向性がみえました
- 実際、関東経産局・クニエの担当者の方々が現地まで赴き現場を見ていただき、現場（クライアント）目線でいろいろな相談へのアドバイスや知恵を出していただいた点が一番良かったと思います。
- **データ取り扱うにあたり必要な知識等を専門家の方から聞いたこと。**いざ自分でネットで調べたとしても膨大な情報がでてきてしまい、どうしていいかわからなくなってしまうと感じました。
- 対面でディスカッションさせていただき、データの利活用に限らず、当社の抱える課題に対して親身にご指導いただけた。
- 1対1の研修です。全体でやるものも良かったです。やはりみんなが聞いていると質問もしにくかったのも、**1対1で相談を聞いていただけたこと、そしてその際に弊社専用に考えてくれ、我々の課題に合ったPBIを作る為にはどうしたらいいか、的確に教えて頂け、本当にありがたかったです。**
- 支援機関が親身に対応いただき、難しい課題ながらも社内評価に値する結果が見いだせたこと。また、外部機関の多様なアドバイス/ご指導と活動内容/進捗を検討できる資料を提供いただけたこと。
- **Power BIによるデータ分析に基づいた指標の設定の大切さを教えていただきました。**
- 個別相談会で悩んでいる部分の相談ができた部分です。
- 参加企業様の今までの成果を聞いたこと、データ活用の考え方から支援までサポートいただけたこと
- リモートでありましたが、分かりやすく支援をして頂きました。
- 改善というよりも、**様々なデータの蓄積が如何に大事なことで利用価値の高い事を再認識出来た。**
- **数字ではとらえられない点や肌感覚の点など曖昧だった点が、視覚化することにより一層鮮明に捉えることが出来た点は期待通りであった。**
- データをもってはいるがどう扱っていいかわからなかったが、基本的なことから専門家の方に説明をいただいた。
- データの利活用、BIツールの説明に限らず、抱える課題に対する施策(ロードマップ)までご指導いただけた。
- 期待に充足した内容でした。**推進テーマが経営層と現場の利害が一致した内容であったため、得られた効果と経験値は大きい。**

2.2. データ活用 1. 全体研修

④ 課題と改善提案

各企業のデータ活用ブートキャンプの取り組みへの理解度、デジタルリテラシ、経営課題への運営側の事前理解により、より効果的かつ訴求する研修を実施することが肝要である。

課題	課題詳細	改善提案
データ活用ブートキャンプの事業説明	- 開始時の事前説明不足に伴うブートキャンプ事業への理解不足の解消 - 知財戦略とデータ活用ブートキャンプの関連性の説明	企業及びコーディネータとの個別相談会の早期開催
事前合意に基づく参加企業情報の共有	- 作成した活動計画書及び活動報告書の資料共有による参加企業間の相互理解の促進 - 活動報告会における「発表企業へのコメント」への負担軽減と事前情報の共有 - 仕事内容や管理数値などの情報開示による参加企業からの有益なコメント・指摘の導出	活動計画書・報告書の開示に関する合意書の作成と企業間での合意
講義・テキスト・ワークショップ・様式のアップデート	- 最終活動報告会用プレゼン資料のフォーマットの統一化 - 講義におけるテキストへの講師からの補足情報の提供 - データ分析に要するPowerBI研修のアフターサポート及び追加研修の開催 - ワークショップにおける参加企業のコメント・指摘の時間効率化 - 画面共有などのTeams の操作習熟及び音声マイク精度の保持 - Step 1 の過密日程による調整負荷の軽減	- 活動計画ワークシートの廃止 - 活動計画書の重複記載の集約化 - 早期の個別相談に基づく研修テキストの更新 - オンライン個別相談会でのTeams利用方法のサポート - 研修日程とコマ割りの見直し

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.2. データ活用 1. 全体研修 1.講義

① 実施内容

データ活用の講義では、5回にわたり、データ活用の概念、業種ごとの特性、事例などにより、各企業様にデータ活用の理解を促した。

講義			講師
第1回	データ活用の具体的な進め方・手法	- データ活用とは（データ活用のプロセス） - どのようなデータがあるか - ツールを使ったデータの分析手法とポイント	シニアコンサルタント 小倉 英一郎
第3回	データ分析ツールの紹介、ツールの使用方法	- 視覚化の効果・重要性 - Power BIの概要・利用方法	シニアコンサルタント 高安 直翔
第4回	製造業系データ分析の手法・事例紹介	- データ分析技術の全体像 - 各手法の紹介と具体例	コンサルタント 窪田 吉倫
第5回	営業系可視化の進め方	- データ分析・可視化の実施プロセス - データ可視化手法の紹介 - 企業における営業系データ分析・可視化事例 - データ分析・可視化技術の最新動向	シニアコンサルタント 土田 和幸
第8回	他社のDXの継続的な取組の事例紹介	- 継続的なデータ活用の現状・課題 - 継続的なデータ活用の成功要因 - 企業様、支援機関・コーディネータ様の要因	マネージャー 星 穰二

参加企業が、データ活用活動計画書を策定し、データ検証による成果を創出するために必要となるスキルや参考事例を習得できた。また、データ活用を継続的に取り組むことへ価値を理解し、次年度以降もデータ活用活動を継続する意識を持つことができた。

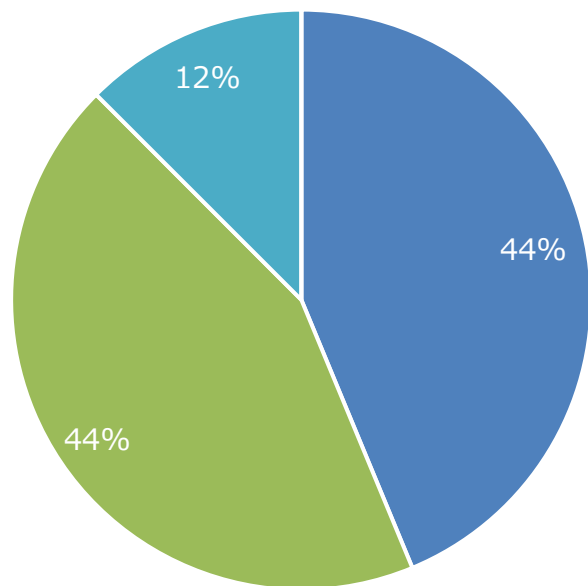
講義		学びのポイント
第1回	データ活用の具体的な進め方・手法	- データ活用のためには、課題や問題意識を持ってデータの収集・加工・分析を進める - 社内外には様々なデータがあり、目的を持ってどのデータが使えるかを考える - BIなどのツールを使うことによって、簡単に可視化ができデータを理解することができるが、データ準備には細かい手間がかかることにも注意が必要である
第3回	データ分析ツールの紹介、ツールの使用方法	- データの可視化の「目的」はコミュニケーションであり、BIツールはそのための「手段」である “良いグラフ”かどうかは、そのグラフが解釈される文脈による 「誰が」「いつ」「何のために」解釈するのか、という問題の設定が重要である
第4回	製造業系データ分析の手法・事例紹介	- 分析タスク（時系列分析、異常検知、画像認識、数理計画）で回答可能なテーマを理解する - 教師あり機械学習（回帰、識別）で回答可能なテーマを理解する
第5回	営業系可視化の進め方	- データ分析・可視化プロジェクトにおいて“可視化”プロセスの実施は必要不可欠である - 代表的なデータ可視化の5つの手法を理解する - 企業における営業系データ分析・可視化事例を知る - データ分析・可視化技術の最新動向を知る
第8回	他社のDXの継続的な取組の事例紹介	- 継続的なデータ活用の取組みは、段階を踏みながら成熟度を上げていくことが肝要である - データ活用の継続には、「戦略」「業務プロセス」「組織・人材」「IT」の4点に取り組む - 地域のDX推進には、産官学金で連携するプラットフォームの構築を検討する

③ 評価

講義の内容及びテキストの感想は参加企業及び連携団体の1割強がやや不満と回答。

<参加企業>

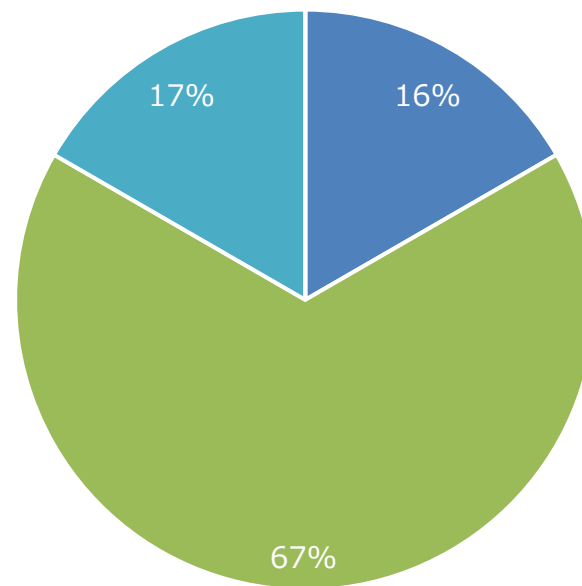
問 本研修の講義の内容及びテキストの感想はいかがでしたか？（n=16）



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

<連携団体>

問 本研修の講義の内容及びテキストの感想はいかがでしたか？（コーディネータ研修含む）（n=12）



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

参加者の評価コメント（抜粋）

- 実際他社事例等はとても興味深かったです
- **知識習得の講義と実際自社のテーマに対する取り組み、ワークショップ、個別相談会とバランスのとれた内容で良かったと思います。**
- データの活用方法。専門家による説明
- **PowerBIの操作方法や分析方法といった技術的な内容から、プロジェクトの進め方等、幅広く活用出来る講義内容/資料であると感じた。**
- スライド等を配布してくれて、知らない知識をつけることができました。
- 学びになる情報がまとめられており参考になりました。
- 専門性の高い内容の講義、テキストを受講することが出来たのでよかったですと思います。
- **段階的なプロセスの組み方や個別相談会の取入れなど非常に取り組みやすい有意義でした。**
- 研修に参加することで様々な気付きや学ぶことができました。
- データ活用において、BIを具体的に知る事が出来たのは、自身の糧となりました。
- 詳細な資料で、後で読み返すことで他社の支援にも活用できると思いました
- 実施期間が適度な間隔を設けていただき、企業側、当方にとって適切なペースでした。
- 支援機関間で支援側の悩みや工夫を意見交換できる場があっても良いかも
- 講義の進み方が早く、追いつかないことがあった。
- 資料の内容が豊富なので、今後他社を指導していく上で、参考にすることができる。
- 考え方を整理した部分の充実が必要と感じる
- **ステップを追って着実に理解を深める内容であった。活動計画書も手順を追った内容であった。**

2.2. データ活用 1. 全体研修 1.講義

④ 課題と改善提案

講義の質の向上に向けて、研修カリキュラム、研修資料の見直しを図る。

課題	課題詳細	改善提案
研修プログラム構成の再編成	- DXの基礎、世界情勢などのDXに関する理解の促進 - 初回講義の過去のブートキャンプ事例の紹介（PowerBIの活用事例など） - 中小企業の事例提供 - 知財戦略とデータ活用の関連性への理解度の向上 - 講義の進行速度のペースダウンによる講義内容へ理解度向上	参加企業のデータ活用人材モデル定義と研修カリキュラムの強化
PowerBI等ツールの技術講習の充実化	- Power BIの中～上級操作説明の充実化（よく使うDAX関数などの紹介） - Power BI利用方法の詳しいマニュアルの提供	BI研修（上級編）の導入による研修の充実化

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.2. データ活用 1. 全体研修 2. ワークショップ

① 実施内容

データ活用ワークショップでは、5回にわたり、PowerBI研修及び補足研修ワークショップ、業種グループ別／テーマグループ別ワークショップを実施し、ツールの利用方法のスキル向上と課題・テーマの共有による企業間のシナジー創出を実施した。

ワークショップ			講師
第3回	PowerBI研修ワークショップ	- レポートの作成 - 時系列別の売上の全体傾向（折れ線グラフ） - 地域別の売上傾向（棒グラフ） - 製品サブカテゴリー別の売上・利益の関連（散布図） - 注文明細（テーブル）	進行 高安 直翔、土田 和幸 サポート 星 穰二、小倉 英一郎、 窪田 吉倫
第4回	業種グループ別ワークショップ A：製造業 B：製造業 C：小売・サービス業 D：建設業	- 活動計画ワークシートの発表 - 参加企業、コーディネータ、クニエからのコメント	ファシリテーション 星 穰二、小倉 英一郎、 窪田 吉倫、高安 直翔、 土田 和幸 サポート 星 穰二
第5回		- 活動計画書の発表 - 参加企業、コーディネータ、クニエからのコメント	
第7回	テーマグループ別ワークショップ Ⅰ：製造 Ⅱ：経理 Ⅲ：営業 Ⅳ：販売・在庫・人事	- 活動計画書の発表 - 参加企業、コーディネータ、クニエからのコメント	
第8回	※ 個別相談ニーズに伴い、ワークショップを企業別個別相談会（1社あたり30分）へ変更		
補足 研修	PowerBI補足研修ワーク ショップ	各社のテーマに沿ったPowerBIによるマンツーマンレッスン	サポート 星 穰二、窪田 吉倫、 高安 直翔、土田 和幸

② 結果

3つのワークショップを通じて、データ活用bootキャンプへの理解を深め、活動計画書で設定したデータ活用テーマの目的やゴール、データ検証に反映することで、より実現性の高い取り組みを設定し、検証することができた。

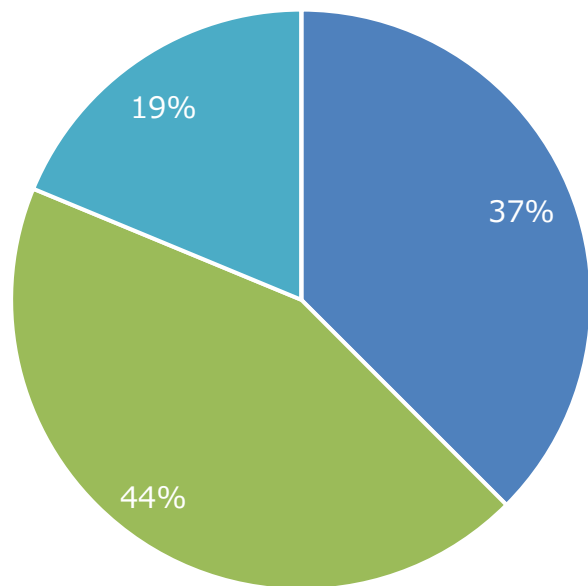
ワークショップ	学びのポイント
PowerBI研修ワークショップ	- PowerBIを操作してみることで、理解できている点と理解できていない点を認識し、自分のレベルを知る - データやグラフを扱ってみることで、保有データの問題や不足項目、各種グラフの特徴を把握し、データ検証に必要な要素や検証したいテーマを考える - トライ＆エラーで試作してみることで、BIツールに対して自ら上げていたハードルを下げ、想像よりも簡単であることを知る
業種グループ別ワークショップ A：製造業 B：製造業 C：小売・サービス業 D：建設業	- 同業他社の現状や課題を知ることで、自社の現在地を知り、目標を定める - 業種共通の課題を共有することで、認識している課題が自社だけのものではないことを知り、データ活用の活動の意義や価値を社内に持ち帰って社内に共有する - 他社の質問やコメントを参考にし、bootキャンプで想定していたデータ活用テーマや活動計画を具現化する
テーマグループ別ワークショップ I：製造 II：経理 III：営業 IV：販売・在庫・人事	- 同じデータ活用テーマを持つ仲間の取り組みを知ることで、データ検証のモチベーションを高め、ゴールまで走り切る - 他社のデータ検証の課題や取り組みを知ることで、自らのデータ検証の参考にし、データ活用活動計画を更新する - 他社のデータ検証を参考に、次年度以降の取り組み継続に向けた新たなデータ活用テーマを検討する

③ 評価

ワークショップの感想は参加企業で2割弱、連携団体に2割強がやや不満と回答。
ワークショップの開催方法・回数の見直しが必要。

<参加企業>

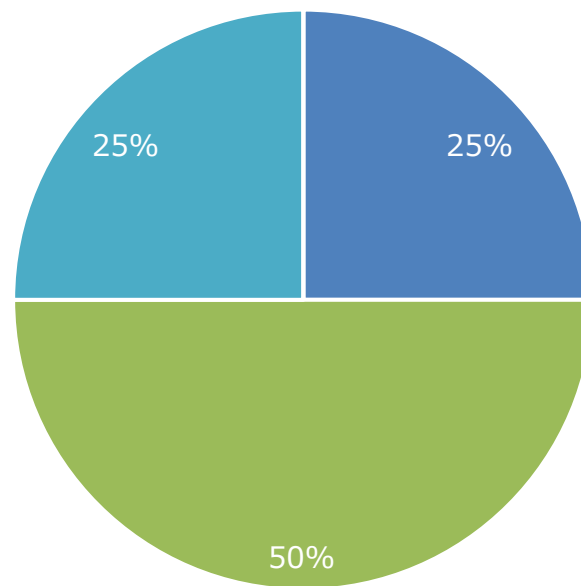
問 本研修のワークショップの感想はいかがでしたか？
(n=16)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

<連携団体>

問 本研修のワークショップの感想はいかがでしたか？
(n=12)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

参加者の評価コメント（抜粋）

- 期限を決め結果を出す事と、検証の機会もあり有意義な時間
- **何回かワークショップを開いていただき、参加企業の進捗状況や有意義な取り組みなどを知ることができ、弊社のモチベーションの向上に繋がった。**
- **他社を交えてでしたので自社に対しての他社の考え、専門家の方の考えを聞いた**
- 弊社は期間内で具体的なデータの利活用(可視化/分析/改善)まで取り組めなかったため、他社の事例が今後の活動の参考となった。
- ワークショップにつきましては、他社やその活動を知る機会を得られて大変良かったです。
- 要所で他社様の活動状況が分かり、自社との対比が出来たので良かったです。
- **時間が限られ短い部分もあったんですが、個別型が特に助かりました。**
- 他社の問題点など拝見できたことは非常に参考になりました。
- **活動計画書のフォーマットも段階的で取り組みを進めやすく、目標を完遂する事が出来ました。**

2.2. データ活用 1. 全体研修 2. ワークショップ

④ 課題と改善提案

ワークショップの質の向上に向けて、参加企業の事前合意を前提に、活動計画書・報告書の共有と1グループ3社への編成の見直しを図る。

課題	課題詳細	改善提案
ワークショップの開催日程・時間の改善	1グループの企業数過多による時間超過の解消 1グループの企業数過多による指導時間の物足りなさ解消 - 発表と質問・コメントの時間配分見直しによる間延び感解消 - 個別相談とワークショップの開催間隔の短さによる議論の重複化の改善 - Step 3の具体的な活動における個別指導の強化	- ワークショップと個別相談会のゆとりある日程調整 1グループあたり3社の最適なグループ編成 - 事前の企業情報の開示による説明時間の短縮と協議時間の確保
ワークショップの事前情報のインプット	- ワークショップの進め方の事前説明不足の改善 - 他社の課題認識の事前把握 - 他社の活動計画の理解不足による浅薄な質問・コメントへの対策 - データ活用活動計画書のフォントサイズの小ささによる画面共有時の理解不足の改善	- ブートキャンプ参加時の企業間の秘密保持契約の締結 - 企業情報、活動計画書などの企業への許諾確認とワークショップ事前配布
ワークショップの議論の活性化	- 企業間の連携を促進する議論の活性化 - ワークショップのグループ編成のバランスとタイミング（業種別、活動テーマ別） - ワークショップのリアル開催による議論の深堀 - 参加企業のDX度レベルの相違によるバラつき感の解消 - Step 3実証における個別相談会ニーズへの対応	- 参加企業のレベルの事前把握と入門編・高度利用編などのグループ編成 - 業種別ワークショップの早期開催による業種課題の共有と議論の深堀 - 活動計画書策定時の活動テーマ別ワークショップ開催による共通課題共有 - Step 3のワークショップの廃止と個別相談会の強化

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

① 実施内容

活動報告会は、Step 2 活動計画書策定、及びStep 3 データ検証の活動成果を報告会形式で計 2 回実施した。

講義		
第6回	Step 2 報告会①	- 活動計画書の発表 ※会社紹介（1分）＋活動計画報告（9分）＋コメント質疑（5分） - 第1部 6社（7テーマ） - 第2部 7社（7テーマ）
第7回	Step 2 報告会②	- 活動計画書の発表 ※会社紹介（1分）＋活動計画報告（9分）＋コメント質疑（5分） - 第3部 3社（4テーマ）
第9回	Step 3 報告会	- 活動報告書の発表 - エグゼクティブサマリは事前配布により、説明を割愛 - 活動計画書：#1-全体像の整理（2分） - 活動計画書：#3-業務効果イメージ（2分） - 活動計画書：#4-可視化の詳細（5分） - 今後の活動計画と活動継続に向けた課題（3分） - 第1部 5社（6テーマ） - 第2部 6社（6テーマ） - 第3部 5社（6テーマ）

② 結果

活動報告会の結果、全ての企業がデータ活用の当初目的を完遂、あるいは、目的達成に向けた有益な検証結果を得ることができ、参加企業各社が次年度以降のデータ活用の取り組み継続につなげることができた。

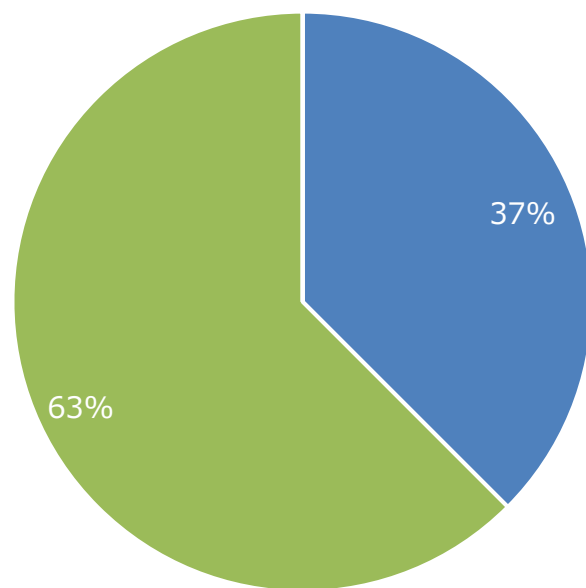
活動報告会	学びのポイント
Step 2 報告会	- 活動計画書を作成することで、想定していたデータ活用テーマ、自社のあるべき姿とその効果、実現に向けた現状と課題、自社のスキルレベルなどの自己理解を深め、現実的かつ実現性の高いデータ活用計画を策定することの重要性を知る - 他社の活動計画を知ること、データ活用の取り組む仲間がいることを知り、データ検証へのモチベーションと高める
Step 3 報告会	- データ検証を通じて、活動計画書で立てた仮説が正しかったこと、あるいは異なっていたことを知り、次に取り組むべきデータ活用テーマを考える - データ検証の結果を業務に適用することで、目標とする効果が得られるかモニタリングすることで継続的な改善サイクルを定着化する - 他社のデータ検証結果を知ること、自社で取り組む新たな試みに活用する

③ 評価

活動報告会の感想は参加企業及び連携団体ともに全社が満足と回答。

<参加企業>

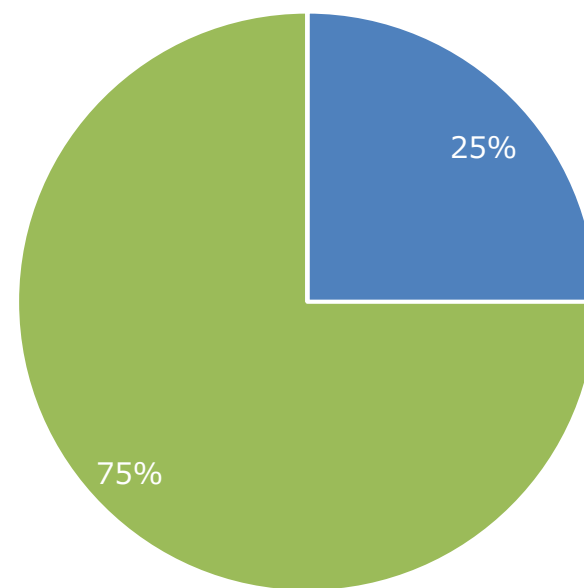
問 本研修の活動報告会の感想はいかがでしたか？
(n=16)



■ 4. 満足 ■ 3. 概ね満足 ■ 2. やや不満 ■ 1. 不満

<連携団体>

問 本研修の活動報告会の感想はいかがでしたか？
(n=12)



■ 4. 満足 ■ 3. 概ね満足 ■ 2. やや不満 ■ 1. 不満

③ 評価

参加者の評価コメント（抜粋）

- 報告の仕方やポイントが事前に周知徹底されていたことから聞いていても理解しやすかった。また、クニエ担当者のアドバイスも建設的で良かったと思います。
- 他社の状況を知ることができた。自社にも共通する部分があるなと感じることもできた
- 他社の事例を全て聞いて非常に参考になった。
- 他社様での問題点、発見点などがあり、当社でも活用できたり、考えなければいけない部分も聞いたことがとても勉強になりました。
- 参加企業様の1年の成果を聞いて共感や学びがあり、参考になりました。
- 他社の取組みで参考としたい部分が多くありました。
- 他企業の結果報告もそうですが、それに対するコーディネータ様、クニエ様のコメントも含めまして勉強になる内容でした。
- **参加企業様、それぞれの試みを拝聴する事で勉強になる事が多く、自社へのフィードバックの参考になりました。**
- クニエや他からのコメントを貰えて励みになりました。
- 様々な業種の企業の様々なテーマの発表を聞いて、非常に興味深く発表を聞けました（第一部から見たかったのですが）
- 企業様ごとに多種多様な取組事例を学ぶことができて非常に良かった。
- 本当は参加事業者すべてが開始から終了まで参加できればいいのですが、時間の関係でそれが叶わなかったこと。またコーディネータは各事業所での参加となっており、移動による視聴できない時間があつたこと。
- 当方が支援した事業者の今後のデータ活用の参考になる取組みもあり、有意義でした。
- 適度なペースメーカーの機能を発揮いただけたと思います。
- 各社がどんな手順で何をやったかが分かったのは良かった。
- 他社も最後はきっちりと成果をだしたことが確認でき、各社の分析手法も参考になった。
- **デジタルイゼーションにいたらなかったが、BPRの重要性について指摘いただいた。**

④ 課題と改善提案

参加企業数・テーマ数が多く、活動報告会の報告時間が長くなるため、各社との合意に基づく活動計画書・報告書の事前配布と、2日間での報告会開催にすることで、長時間の拘束を回避することが肝要である。

課題	課題詳細	改善提案
活動報告会の開催日程の見直し	- 最終活動報告会プレゼン用資料のバラつきと小フォントの解消 1日開催の活動報告会の時間短縮と情報過多によるタイトなスケジュールの解消 - 終日開催・自由参加による企業及びコーディネータの参加時間のムラの解消 - 短時間で要点を中心とした発表によるあっさり感の見直し	最終活動報告会プレゼン用資料のフォーマットの統一化（エグゼクティブサマリの見直し）
データ活用 活動計画書・ 活動報告書の 資料共有	- 他社の活動の理解不足による結果報告の消化不良感の解消 - 発表事例の共有による各企業のデータ活用情報やノウハウの蓄積	- 発表日を複数日に分けて開催 - 活動報告会のリアル開催による参加企業からの質問・コメントの活性化
活動報告会でのコメント要否の判断	個別相談会での意見交換・指摘と、活動報告会でのコーディネータとクニエのコメント重複感の解消	報告企業向けと傍聴している参加企業向けのコメント先の明確化と切り分け

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.2. 企業別個別相談会

① 実施内容

企業別個別相談では、参加企業16社と1社あたり5回（現地訪問2回、オンライン3回）計80回にわたり、個別に協議し、疑問や課題、対策を協議した。

企業別個別相談会	実施概要		実施内容
第1回個別相談会： オンライン	データ 活用研修	課題整理／ 活動計画テーマの 設定	- 各企業の現状把握 - 各企業のデータ活用上の問題、課題のヒアリング - 活動計画ワークシート作成方法の説明
第2回個別相談会： 現地訪問		活動計画書の 作成方法	- 現場視察による現状確認 - 業務、データ、システムの状況把握による課題整理 - ホワイトボードを利用した課題及び対策立案 - 活動計画書の作成方法を説明
第3回個別相談会： オンライン		活動計画書の 作成方法	- 活動計画書のレビュー - 活動計画書作成時の疑問点の解消 - データ検証の準備、先行着手へのアドバイス - 活動報告会での報告方法の説明
第4回個別相談会： 現地訪問		データ活用検証の 課題解決	- データ検証状況の確認 - データ検証で生じた新たな課題への対策立案 - 活動報告に向けた活動計画書の更新方法の説明
知財個別相談会：	知財研修		—
第5回個別相談会： オンライン	データ 活用研修	データ活用検証の 課題解決	- データ検証状況の確認 - データ検証で生じた新たな課題への対策立案 - 活動報告に向けた活動計画書の更新方法の説明 - エグゼクティブサマリの作成方法の説明 - 活動報告会での報告方法の説明

2.2. 企業別個別相談会

② 結果

参加企業各社の現状を正しく把握し、各社の問題認識の根拠、要因を理解した上で、課題と対策立案をサポートできたことで、各企業のデータ検証の精度向上に大きく寄与した。また、各社の不安やテーマ外の相談へも対応したことで、高い満足を得ることができた。

実施概要	学びのポイント
課題整理／活動計画テーマの設定	- 業務・システムの現状を俯瞰的に整理することで、問題の所在や影響範囲の把握、問題の相関性を理解し、課題解決を図る - 想定していたデータ活用テーマと目的を可視化し、達成すべき目標を明確にする
活動計画書の作成方法	- 活動計画書の作成方法を理解することで、ブートキャンプの取り組みを正しく可視化し、データ検証を円滑に進める - データ活用活動計画書の用途を理解すること、社内での合意形成や取り組み説明に活用し、社内での協力体制を構築する
データ活用検証の課題解決	- ツールの利用も含めたデータの検証方法を理解することで、活動計画書の仮説を適切に検証し、Fit & Gapによる新たな課題を浮き彫りにする - 検証結果のとりまとめ方法を理解することで、社内での結果説明に活用し、データ活用の有意性や取り組みの継続への合意形成を図る

2.2. 企業別個別相談会

② 結果

【事例①】データ活用：企業事例

活動計画書作成

【データ活用上の課題整理】

- 企業のデータの保存状態を把握するために、バリューチェーン及び作業工程、システム及びExcel等の状態をホワイトボードを使って現状を整理

【あるべき姿の構成案作成】

- 企業の現状のシステム構成と、目指すあるべき姿をヒアリングし、将来的なシステム構成案を作成
- 段階的なロードマップ案を提示し、企業のDX投資に即したアプローチを提案

データ活用検証

【BIツールの技術支援】

- PowerBIの使い方の疑問に対し、サンプルデータによる検証事例を作成し、企業へ説明
- 企業訪問にて、PowerBIの環境設定を確認し、企業内での情報共有する方法を構築支援

【DX関連情報の提供】

- AIカメラを活用した新たなデータ取得の試みに対し、企業の投資規模に沿った候補となるサービスやアプリケーションに関する情報を提供
- デジタルマーケティングやシステム構成に関する情報を参考事例として提供

2.2. 企業別個別相談会

② 結果

【事例①】データ活用：コーディネータ事例

自治体の例

【商工会議所中小企業支援センターの広域専門指導員】

- 国内ITベンダーにて、大型プロジェクトのプロジェクトマネージャーの実績を有するコーディネータとして、参加企業に対して、データ活用の問題の発見、要因の分析、課題提起、対策の立案を実施
- 企業へのヒアリングに基づき、検討資料を作成
- 活動計画書の作成、及び、データ活用の検証をフォローし、進め方をアドバイス

【市の委託コーディネータ】

- 国内メーカーにて、製品の品質保証管理の実績を有するコーディネータとして、参加企業に対して、データ活用の問題の発見、要因の分析、課題提起、対策の立案を実施
- 企業へのヒアリングに基づき、検討資料を作成
- 活動計画書の作成、及び、データ活用の検証をフォローし、進め方をアドバイス

金融機関の例

【金融機関の調査役】

- 地域中小企業への営業・事業計画の策定支援などの実績を有するコーディネータとして、参加企業に対して、データ活用の有用性、企業における成果創出の価値、経営層への価値説明、など、データ活用を俯瞰的にサポート
- データ活用の目的及び投資対効果の明確化、社内への定着化の視点で、活動計画書の作成をフォロー

【金融機関の調査役】

- 地域中小企業への事業計画の策定支援、補助金申請支援などの実績を有するコーディネータとして、参加企業の伴走役を務め、企業の問題を把握し、対策を立案
- BIツール研修及び自己学習を通じて、参加企業のデータ活用検証に寄り添ってサポート

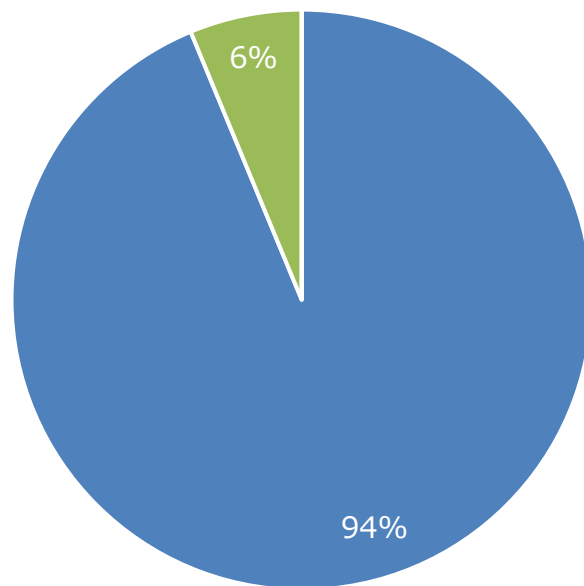
2.2. 企業別個別相談会

③ 評価

個別相談会の感想は参加企業及び連携団体ともに全社が満足と回答。

<参加企業>

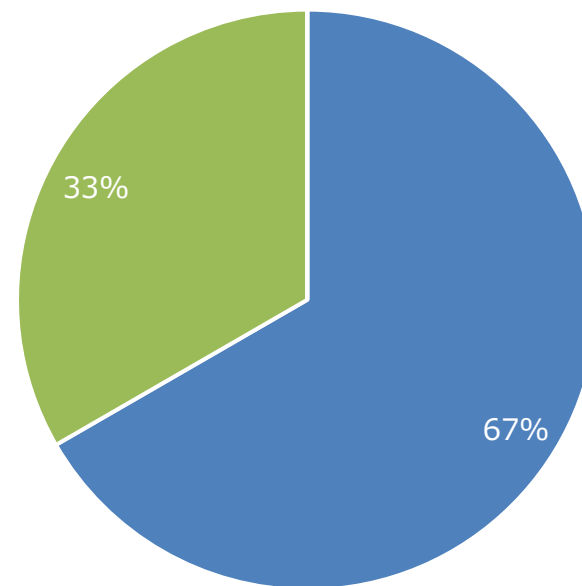
問 個別相談会の感想はいかがでしたか？
(n=16)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

<連携団体>

問 個別相談会の感想はいかがでしたか？
(n=12)



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

2.2. 企業別個別相談会

③ 評価

参加者の評価コメント（抜粋）

- 中に入って頂き、寄り添って頂けたことに感謝です
- 非常に有意義な時間でした。自身の知らない分析方法や、新しい視点など専門家の意見を聞く機会があまりなかった為、各自のスキルアップにつながりました
- 現場に来ていただき、見ていただき、当社目線で一緒にいろいろ考えていただき、とても貴重な意見や有意義なアドバイスをたくさんいただいたことに大変満足しております。
- 専門家の方へ直に相談や意見交換をすることができた。
- 今後も継続的に実施を希望したいと感じるほど有益な内容であった。
- **この頻度は緊張感があるちょうどいい頻度**であり、わざわざ来てもらって自社を知ってもらい、そして活動のアドバイスを頂けるなんて豪華なことはなかったので感動しました！
- 現場を確認いただいた上でのアドバイスであったため、非常に共感・理解し易かった
- 自社の課題に対して熱心に取り組んでいただき感謝申し上げます。
- **実地でのBIツール研修はとても良かったです。**
- 個別相談会内容について、不明点に対して柔軟に対応して頂き、ありがとうございました。
- **当社まで足を運んでいただいたことで、できれば外に出したくない資料や内容についても相談することが出来、かつ今後のアクションについても広くアドバイスを頂くことが出来大変有意義**に感じました。ありがとうございます。
- **進捗する上で細かい疑問点が出てくる事があったが、個別相談会で直接レクチャーを受けられた事は凄く効果的**でした。
- 後半は何度も足を運んでくれて、難解な問題も解決してくれて助かりました。
- DXから派生した深い議論を交わすことで、参加企業の何かヒントになったと思います。
- 企業側の課題について親身且つ的確に対応していただいたと思います。
- **各企業のレベル感や進捗状況に合わせたご対応をしていただきました。**
- 様々な視点で提案いただいたのはとても有意義でした。
- 踏み込んだ相談と、適度なペースメーカーとして機能していたと思います。
- 現場での個別相談会が多く持てたことは良い。
- 直接企業の持つ課題や特性について語られるので、データー活用の方を決められる。

2.2. 企業別個別相談会

④ 課題と改善提案

個別相談会への参加企業の高い期待値に応えるために、相談事項や議事次第を明確にする仕組みを整備し時間効率性を高めると共に、参加企業数を抑えて、1社あたりの対応時間を拡大することが肝要である。

課題	課題詳細	改善提案
個別相談会の開催時期・対応方法の見直し	・ 個別相談会の時間不足の解消 ・ 個別相談会のリアル開催の拡大 ・ データ活用テーマ設定時の個別相談会のリアル開催 ・ テクニカル、業種スペシャリスト、経営の3名体制での個別相談の要望	・ 企業数の縮小による1社あたりの対応時間の拡大 ・ 課題や協議事項の事前把握による最適なアドバイザーの確保
個別相談会の議事次第・論点の明確化	・ データ抽出やデータ活用方針検討での企業の悩み解消 ・ 個別相談会での課題・対策の論点拡散の抑止 ・ 切り口や進め方、成果（ゴール）の理解と深堀の十分な時間確保	・ セルフアセスメントの定型化による論点の明確化 ・ 日程調整時の相談事項の提出依頼

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.3. 情報連絡会

① 実施内容

情報連絡会は、連携団体・コーディネータ7団体と、全体研修の振り返りとして、翌週に9回にわたり実施することで、事務連絡と関係者間での情報共有を円滑にし、事業期間内に参加企業16社すべてがデータ検証を完遂するよう管理した。

情報連絡会	実施概要
第1回情報連絡会	自己紹介、第1回研修の振り返り、第2・3回研修の説明
第2回情報連絡会	第2・3回研修・第1回コーディネータ研修の振り返り、 Step 2 / 個別相談会の説明、第4回研修の説明
第3回情報連絡会	第4回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第5回研修の説明
第4回情報連絡会	第5回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第6回研修の説明
第5回情報連絡会	第6回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第7回研修の説明
第6回情報連絡会	第7回研修・第2回コーディネータ研修・BI補足研修の振り返り、 企業フォローアップ状況確認、第8回研修の説明
第7回情報連絡会	企業フォローアップ状況確認、第8・9回研修の説明
第8回情報連絡会	第8回研修の振り返り、企業フォローアップ状況確認、第9回研修の説明
第9回情報連絡会	第9回研修の振り返り、各連携団体からの報告、アフターサポートの説明

2.3. 情報連絡会

② 結果

連携団体及びコーディネータが、担当する参加企業の活動状況を効果的に伴走支援し、活動成果の導出まで完走できた。

実施概要	プロジェクト運営のポイント
研修各回の振り返り	- 研修アンケートの集計結果と参加企業のコメントを把握することで、参加企業の研修への満足度、理解度、改善要望を理解し、タイムリーに対処し、研修の品質維持を図る - 参加企業の理解レベルに応じて、コーディネータ及びクニエによるアフターケアを行うことで、参加企業のブートキャンプからの離脱と、活動計画及びデータ活用検証の品質劣化を防止する
企業フォローアップ状況確認	- 参加企業の活動状況をタイムリーに把握することで、問題の長期化や活動の停滞を防ぎ、データ活用検証での効果の創出を確実にする - コーディネータによる企業へのサポート状況、頻度、問題・課題を把握することで、適切なサポートを管理し、問題へ迅速に対処する
事務連絡	次の回以降の予定を連携団体・コーディネータへ早めに伝え、意見をうかがうことで、次の回の研修内容を決定し、早めに研修資料の準備、事前配布を行い、参加企業の理解度向上と研修の充実化を図る

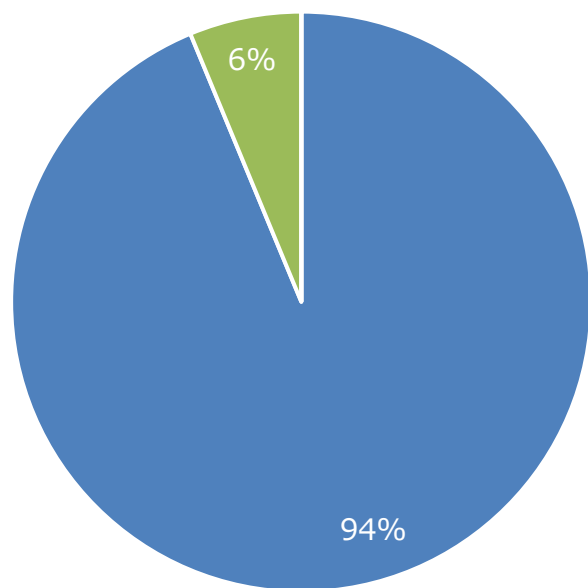
2.3. 情報連絡会

③ 評価

参加企業の支援機関・コーディネータの支援に関する感想は全社が満足と回答。
情報連絡会の感想は2割強がやや不満又は不満と回答。抜本的な改善が必要。

<参加企業>

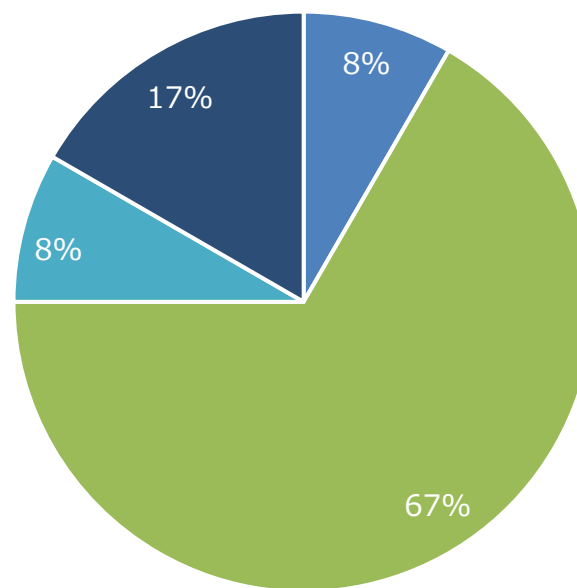
問 支援機関・コーディネータの支援に対する感想はいかがでしたか？（n=16）



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

<連携団体>

問 情報連絡会の感想はいかがでしたか？（n=12）



■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

参加者の評価コメント（抜粋）

- 各回の研修のフィードバックを行うことで、研修をよりよいものにしようとしていた。
- クニエ様より、進捗や計画に対する確かなコメントを頂いたのは、事業者様支援に際しとても有効的でした。
- **適度なペースメーカー、及び情報共有の場として機能していたと思います。**
- 内容等は概ね満足しました。

2.3. 情報連絡会

④ 課題と改善提案

情報連絡会の在り方については、より有益な会議体にするために議事次第、資料様式、開催頻度などを抜本的に見直し、コーディネータが建設的かつ有益な情報交換を行う価値ある場として整備する。

課題	課題詳細	改善提案
議事次第、資料共有の改善による効率化	・ 会議での共有事項と資料での共有事項の切り分けによる会議のシンプル化 ・ 企業の改善すべき事項への説明や支援機関相互の議論の時間確保 ・ 連携団体及びコーディネータの支援事項協議の深堀 ・ 他社の進捗状況の資料報告による議事次第からの割愛	・ 資料提出のみの状況報告とアンケート結果の共有化による企業の状況把握の効率化 ・ コーディネータ間での議論テーマ設定による有益なコミュニケーションの構築
開催頻度、開催時刻の見直し	・ 開始時刻の見直し（13:30-14:30 の時間設定） ・ 効率化による開催回数の縮小	・ 切りの良い時間での開始による参加者の時間効率化 ・ 関係者間協議による開催回数・時期の更新

1. 事業報告概要

1. 基本方針
2. 業務概要
 1. 知財戦略
 2. データ活用
3. 実施結果
 1. 知財戦略
 2. データ活用
4. 総括・提言

2. 事業報告詳細

1. 知財戦略
 1. 全体研修
 2. 企業別個別相談会
2. データ活用
 1. 全体研修
 1. 講義
 2. ワークショップ
 3. 活動報告会
 2. 企業別個別相談会
 3. 情報連絡会
 4. コーディネータ研修

2.4. コーディネータ研修

① 実施内容 ② 結果

コーディネータ研修では、2回にわたり、コーディネータによる参加企業への支援方法、事例による技術情報を講義し、コーディネータのスキル向上を促すことで、参加企業支援で必要となる伴走支援のノウハウを習得することができた。

① 実施内容

講義			講師
第1回	コーディネータ研修①	・ コーディネータのご紹介 ・ 昨年度の取り組みのご紹介 ・ 依頼事項の確認	マネージャー 星 穰二
第2回	コーディネータ研修②	・ テーマごとの事例紹介 (製造系、経理系、営業系、在庫系、人事系) ・ 依頼事項の確認	

② 結果

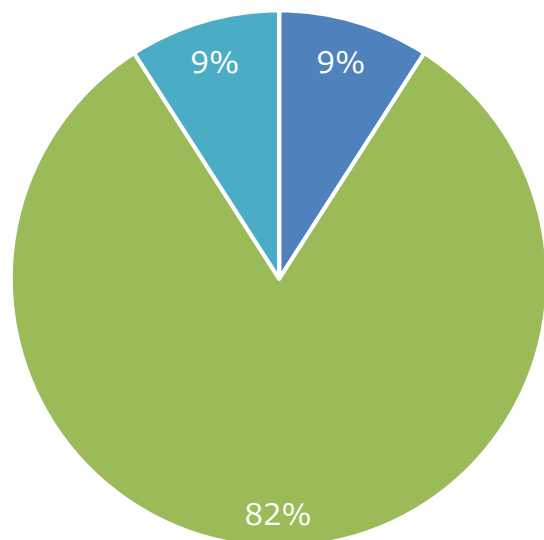
講義	学びのポイント
・ コーディネータのご紹介 ・ 昨年度の取り組みのご紹介 ・ 依頼事項の確認	・ 過去事例や世の中の事例を知ること、参加企業へのサポート時の参考情報として、活用可能となる
・ テーマごとの事例紹介 (製造系、経理系、営業系、在庫系、人事系) ・ 依頼事項の確認	

2.4. コーディネータ研修

③ 評価

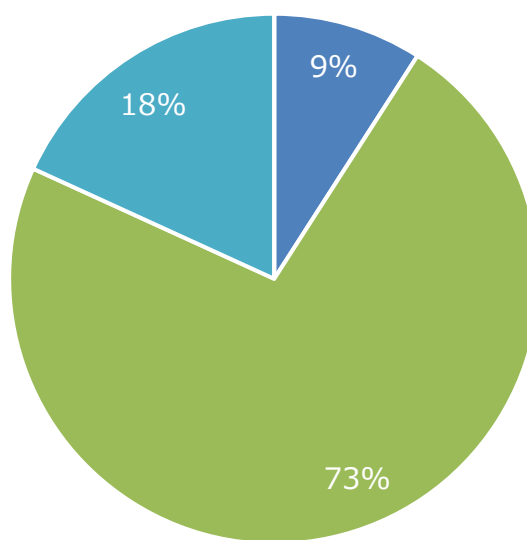
9 割が満足と回答。一方、2 割が期待に対して、あまり十分でないと回答。
また、2 割がデータ活用を支援していく上であまり役に立たなかったと回答。

問 今回の研修全体を通しての感想
はいかがでしたか？（n=11）



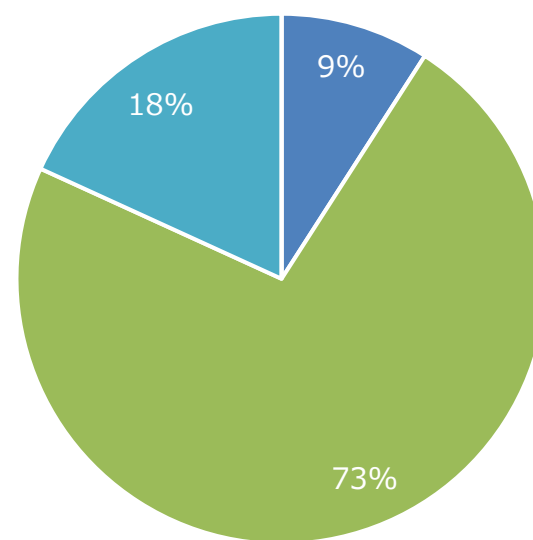
■ 4.満足 ■ 3.概ね満足 ■ 2.やや不満 ■ 1.不満

問 今回の研修はご期待に対して充
足した内容でしたか？
（n=11）



■ 4.充足 ■ 3.概ね充足 ■ 2.あまり十分でない ■ 1.不十分

問 今回の研修は参加企業のデー
タ活用を支援していく上で有益な
内容でしたか？（n=11）



■ 4.有益 ■ 3.概ね有益 ■ 2.あまり役に立たなかった ■ 1.無益

2.4. コーディネータ研修

③ 評価



参加者の評価コメント（抜粋）

- 他社の進捗状況がわかりました。
- 個別企業の現状に対してご助言いただいた点がありがたかったです
- 様々な取り組みを聞くことができ、どういった部分でDX化できるのかの理解が進みました。
- **業種別の事例紹介が今後の活動の参考になると思います。**
- **事例紹介は大変参考になった。大手企業のテーマが大きいので、それをどのように応用していくかの検討は必要と思う。例えば、AIの活用などコストや技量の問題があると思う。**
- **業種別に関連事例を提示して頂いたので、アドバイスする際の参考になります。**
- 大手企業の事例を知ることができた。中小企業での取組事例や対応も知りたい。
- 弊行支援企業3社について、クニエ様よりアドバイスを頂けたこと。

2.4. コーディネータ研修

④ 課題と改善提案

コーディネータ研修の在り方については、コーディネータが地域のDX推進役としての素養を身につけることができるよう講義内容、資料様式、開催頻度などを抜本的に見直し、コーディネータが成長できる研修として整備する。

課題	課題詳細	改善提案
コーディネータ 研修プログラムの 抜本的な 見直しによる 支援体制の 充実化	・ コーディネータのデータ活用の経験へのサポートの拡充 ・ 支援機関間での支援側の悩みや工夫に関する意見交換の場の設定 ・ コーディネータの考え方の整理と具体的なアクションの説明 ・ 研修強化によるコーディネータへのデータ分析のノウハウの蓄積 ・ コーディネータとしてのデータ活用支援のスキル習得のための研修の充実化	・ コーディネータ研修の開催頻度の拡大 ・ コーディネータの人材モデル定義と研修カリキュラムの強化

本件に関するお問い合わせ先



株式会社 クニエ

TEL : 03-3517-2292
WEB : <https://www.qunie.com>
E-MAIL : info@qunie.com

マネージャー
星 穰二 Joji Hoshi
hoshij@qunie.com
(直通) Tel: 080-1010-2386